

聖徒の道 3 1984





末日聖徒イエス・キリスト教会

大管長会

スペンサー・W・キンボール
マリオン・G・ロムニー
ゴードン・B・ヒンクレ

十二使徒評議員会

エズラ・タフト・ベンソン
ハワード・W・ハンター
トーマス・S・モンソン
ボイド・K・バックナー
マービン・J・アシュトン
ブルース・R・マッコスキー
L・トム・ペリー
デビッド・B・ヘイト
ジェームズ・E・ファウスト
ニール・A・マックスウェル

顧問

M・ラッセル・バラード
ローレン・C・ダン
レックス・D・ピネガー
チャールズ・A・ディディエ
ジョージ・P・リー

編集長

M・ラッセル・バラード

国際機関誌

編集主幹：
ラリー・A・ヒラー
編集副主幹：
デビッド・ミッチェル
子供の頁編集：
ボニー・ソーンダース
レイアウト・デザイン：
マイケル・カワサキ

も く じ

人が主の約束を受けられるように助ける…スペンサー・W・キンボール… 1
 あなたの伴侶の宣教師となる…モーリー・H・ソレンセン… 8
 質疑応答…アーサー・R・バセット…14
 近くにありて遠きもの(自閉症児とともに)…カーメン・B・ピングリー…16
 特別な人…フランク・D・デイ…24
 義の武器…カーロス・E・エイシー…28
 われらは正直なるべきことを信ず…マービン・J・アシュトン…35
 小さなお友だちへ
 (フランクリン・D・リチャーズ長老)…ジャネット・ピーターソン…42
 イエスマは、どうやってお金をうけとるの…ローウェル・J・フェッツ…46
 よげんしゃヨナ…50
 おもちゃばこ…53
 末日聖徒イエス・キリスト教会 ここ10年の歩み…54
 チャーチニュース/ローカルページ…58

■表紙：ジェド・クラーク撮影

1984年3月号 聖徒の道 第28巻第3号

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-440-2351

印刷所 株式会社 精興社

定 価 年間予約/海外予約2,200円(送料共)
半年予約1,100円(送料共)
1部180円, 大会号350円

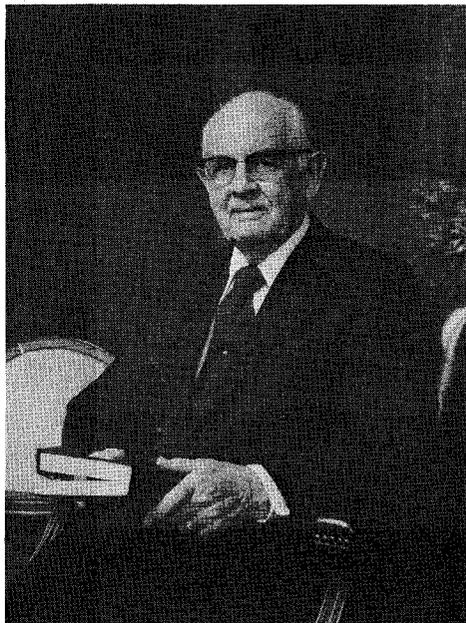
International Magazine PBMA0438JA Printed in Tokyo, Japan.

©1984 by the Corporation of the President of the Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved.

●定期購読は、「聖徒の道予約申し込み用紙」でお申し込みになるか、または現金書留か振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 渋谷ブックセンター 振替口座番号/東京0-41512)にてご送金いただければ、直接郵送致します。注:お届け先の変更がありましたら、早急に渋谷ブックセンターにご連絡下さい。●「聖徒の道」のご注文・お支払いなどの連絡先……〒150 東京都渋谷区桜丘町28-8/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部渋谷ブックセンター/☎03-464-1617(代)



人が主の 約束を 受けられる ように 助ける



このメッセージは、キンボール大管長の指示により、これまでの大管長の説教の中から引用したものです。

大管長
スペンサー・W・キンボール

私は主のとえ話が大好きですが、特に一時的に道を踏みはずした兄弟と姉妹に関するふたつのとえ話は格別です。このたとえ話は、主が取税人や罪人と一緒にいたことで、律法学者やパリサイ人たちから責められたときに話されたものです。

「するとパリサイ人や律法学者たちがつぶやいて、『この人は罪人たちを迎えて一緒に食事をしている』と言った。そこでイエスは彼らに、この譬をお話になった、『あな

たがたのうちに、百匹の羊を持っている者がいたとする。その一匹がいなくなったら、九十九匹を野原に残しておいて、いなくなった一匹を見つけるまでは捜し歩かないであろうか。そして見つけたら、喜んでそれを自分の肩に乗せ、家に帰ってきて友人や隣り人を呼び集め、『わたしと一緒に喜んでください。いなくなった羊を見つけましたから』と言うであろう。よく聞きなさい。それと同じように、罪人がひとりでも悔い



改めるなら、悔改めを必要としない九十九人の正しい人のためにもまさる大きいよるこびが、天にあるであろう。」(ルカ15：2-7)

何と力強いメッセージでしょう。この主のたとえ話は、困っている人々に、特にこの場合は仲間にはぐれて道に迷ってしまった人々を捜し出し、援助するよるといふ愛を説いています。このたとえ話の真意を重く見られた主は、同じ内容の別のたとえ話をしてそれを強調しておられます。なくなった銀貨についてのたとえ話です。

「ある女が銀貨十枚を持っていて、もしその一枚をなくしたとすれば、彼女はあかりをつけて家中を掃き、それを見つけるまでは注意深く捜さないであろうか。そして、見つけたなら、女友だちや近所の女たちを呼び集めて、『わたしと一緒に喜んでください。なくした銀貨が見つかりましたから』と言うであろう。よく聞きなさい。それと同じように、罪人がひとりでも悔い改めるなら、神の御使たちの前でよるこびがあるであろう。」(ルカ15：8-10)

教会の兄弟姉妹としての私たちの責任は、道を見いだせないで迷っている人を助け、大切な宝を失ってしまった人がもう一度その宝を見つけられるよう手を貸すことです。聖典には、すべて会員には同胞を強める責任があるとはっきり記されています。救い主は、ペテロに次のように言われてこのことを強調されました。「あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい。」(ルカ22：32) 私は皆さんにも同じよ

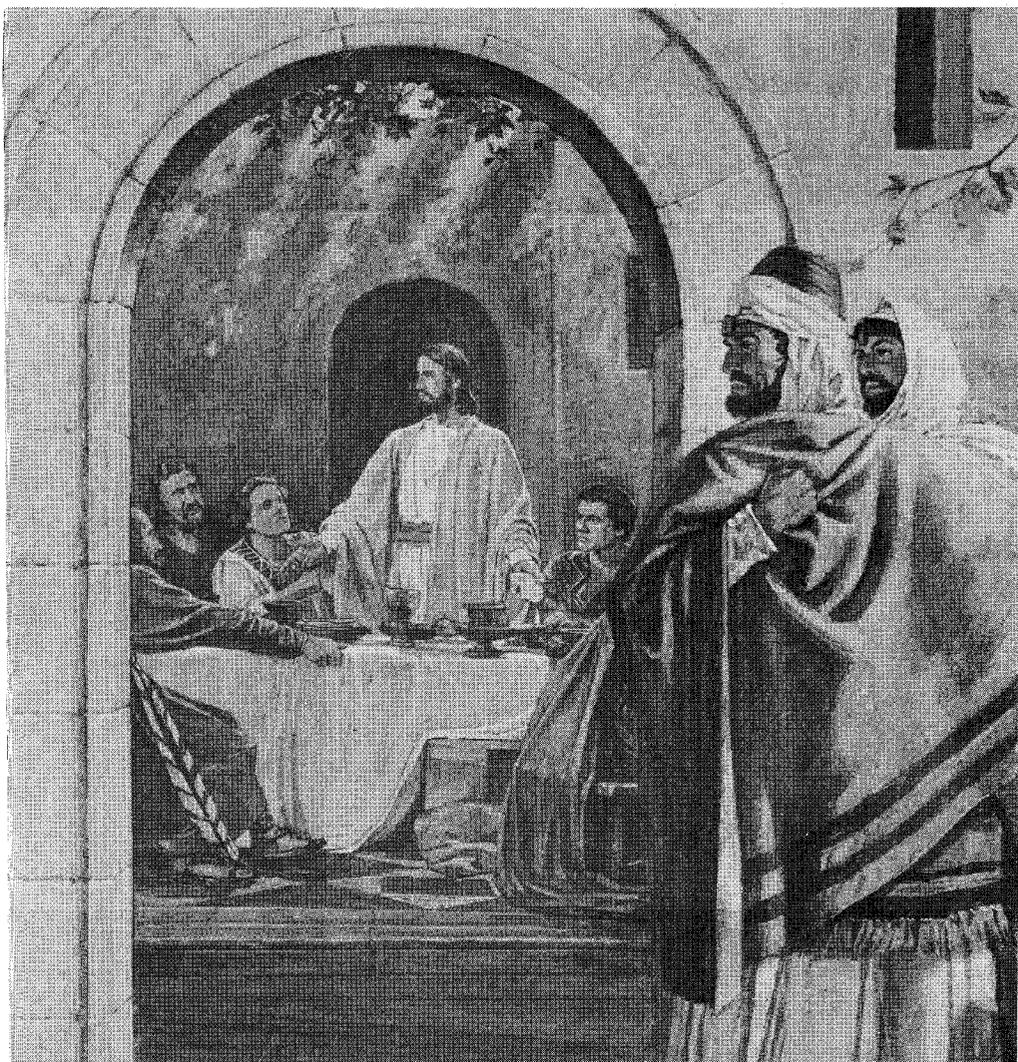
うなことを申しあげたいと思います。皆さんが立ち直ったときには、どうぞ兄弟姉妹を力づけてあげてください。原因もわからないまま靈的に飢え渴いている人が大勢いるのです。人の靈と心に平安と安心感をもたらす靈の真理と原則があることを忘れないでください。そして、その平安と安心感に祈りをし、積極的に関心を向けることによってもたらされるのです。

ある若いカップルは、結婚したら生活を整え、神殿に行つて永遠の結婚をしようと約束していました。ふたりは深く愛し合っており、神権者の結び固めによる結婚の誓約の力も信じていました。しかしふたりにはこのことに熱心に取り組めない何らかの事情がありました。時がたち、子供が生まれました。ふたりは地域の行事に多忙な日々を送るようになりました。夫は家族を愛し、妻のジェニーはますます美しさを増していきました。母親としての仕事が彼女に活気を与えたのです。家族を思いやる気持ちますます彼女を慈愛にあふれさせていきました。そして彼女は度度か夫に、監督のところに行つて神殿推薦状を受けようともちかけました。しかし、夫はそれを拒んだのです。

こうして時がたつにつれ、安息日の集會に出席しようとする彼女の気持ちと、それよりも自分の楽しみを優先させようとする夫の気持ちの間に対立が見られるようになってきました。そしてついに、彼女は日曜日に夫と一緒にいる方がより気が休まると思うようになったのです。こうしてふたり



一時的に道を踏みはずした人々に関する主のふたつのたとえ話は、主が取税人や罪人と一緒にいたことで、パリサイ人たちから責められたときに話されたものです。





は教会の責任もほとんどしなくなり、子供たちが十代になる頃には、のん気に自分たちの楽しみにふけるようになってしまったのです。

こうしたある日、すべてに終止符が打たれました。この家族は日曜日にピクニックに出かけて交通事故にあったのです。そして妻のジェニーと子供がひとり命を落としてしまいました。

葬式のあと夫は、人生は限りある寂しいものだと思うようになりました。妻のいなくなったその家族は抜けがらのようでした。彼にとっては毎日がむなしく、人生は暗く寂しいものとなりました。仕事と残された子供たちとの生活にみずからを打ち込んでみても、胸の痛みは消えませんでした。妻のジェニーのことがたえず頭から離れませんでした。そして心に慰めも平安もないまま、彼はジェニーと永遠にわたって結ばれる神権による結び固めを受けていないことを思い出しました。彼の涙は乾かず深い悲しみと不安が続きました。

そうしたある晩、彼は夢を見ました。いつものすぐ忘れてしまうような夢とは違って、それは一日中はっきりと心に残りました。彼は見知らぬ所において、大きく開いた門の中を見ているようでした。その門の真ん中にはひとりの女性と女の子がいました。突然彼にはその人たちがだれであるかわかり、温かい気持ちになりました。ジェニーは前にも増して美しく見えました。そしてうれしいことにその愛するふたりは彼の方を見ていました。ふたりは彼に門をくぐっ

て自分たちの方に来るように手招きしました。それはぜひとも一緒にいたいと言っているようでした。彼の方で行きさえすれば行けることは明らかでした。そこで彼は体を動かそうとしました。しかし力が出ないのです。一生懸命もがいているうちに、大きな門は閉まり始めました。

彼もジェニーもなんとかしなければならぬことはわかっていました。彼はもう一度ジェニーの方に目をやりました。そしてそれが最後になりました。彼女は愛する夫が中に入れないまま門が閉まるうとしている様子に恐れおののいているようでした。

彼はここで目を覚ましました。そして、妻といとおしい子供たちと一緒にいられるなら、また永遠の生命を受ける人々に約束されている完全な祝福を受けられるなら、自分にあるものをすべて、命さえも捧げたい気持ちになりました。

それは単なる夢でしかなかったのでしょうか。彼は人生の中で最もすばらしい機会のひとつを逃してしまったのでしょうか。それとも彼のすばらしい望みが再び世のわずらいに押され、かき消されないうちに素早い行動に移ればまだチャンスはあるのでしょうか。

主は人の心を正しく動かす力、すなわちこの世の目的と幕のかなたの状態についての真理を知ろうとするときにもたらされる力をよくご存じです。主は、耳を傾け深く考える備えのできた人々の心に主のメッセージを深く刻み込ませるために、他にふたつのだとえ話をされました。



「ある女が銀貨十枚を持っていて、もしその一枚をなくしたとすれば、彼女はあかりをつけて家中を掃き、それを見つけるまでは注意深く捜さないであろうが。」



「天国は、畑に隠してある宝のようなものである。人がそれを見つけると隠しておき、喜びのあまり、行って持ち物をみな売りはらい、そしてその畑を買うのである。

また天国は、良い真珠を捜している商人のようなものである。高価な真珠一個を見

いだすと、行って持ち物をみな売りはらい、そしてこれを買うのである。」(マタイ13:44-46)

ジェニーの夫は、これらのたとえ話の真意を十分に理解できるようになっていました。彼は、ジェニーと永遠に一緒にいられるという平安と確信を得るためなら、持っているものをすべて売り払うことさえいとわなかったでしょう。幸いにも、彼はこれから先、そのような祝福にあずかるためにしなければならないこと、また、そのためにはどのような生活を送らなければならないかを知っていました。しかし兄弟姉妹の中には、このような神殿の祝福やその他の教会の祝福を必要としていて、しかも私たちの援助があってはじめて、主が約束してくださっているものを得ることができる人々がいます。

そのような人々に手を差し伸べるとき、私はふさわしい機会を見つけて、まず次のような質問を試みることにしています。

「お祈りはしていますか。何回ぐらいしますか。どれくらい熱心にお祈りをしていますか。私がぜひとも手を貸してあげたいと思っていたある若者がいました。私はいくつか質問してから、こう尋ねました。「暇なときはどんなことをしていますか。どんな本を読んでいますか。どんな友達とどんな遊びをしていますか。彼の答えから彼が鉄の棒から離れてしまった理由がうかがえました。彼はおもに神を信じていない人々と付き合っていたのです。そして天父に熱心に祈ることをやめてしまっていました。」



私はさらにこう尋ねました。「伝道に行つて以来、新約聖書はどれくらい読みましたか。モルモン経はどうですか。」彼は長い間主の聖餐にあずかっていませんでした。それでいてなぜ自分の中にあるみたまが死んだようになってしまったのか、理解できないようでした。また什分の一も納めないまま、なぜ天の窓に鍵がかけられてしまうのかわからないといったふうでした。彼は受けられたはずのものをまだすべて受けていなかったのです。

私たちの中には時々、忙しすぎて教会の集会や活動に出られない、家族の祈りができない、他のことに熱中するあまり家庭の夕べが開けない、疲れて聖典の勉強ができないという人がいます。残念なことに、そのような人々は生涯にわたってさまざまな不安から支えてくれる、日々の、また1週間ごとのマナを自分から拒んでいるのです。しかしそのような人々も私たちと共に努力し祈るなら、この世から永遠にわたって、大きな喜びを経験するはずです。このようなチャレンジにあつては、僕たちすべてに与えておられる主の次の勧告を思い起こすべきでしょう。「しかし、このたぐいは、祈りと断食とによらなければ、追い出すことはできない。」(マタイ17:21) まだ主に心を向ける用意のできていない人は、断食と祈りをするようにというこの主の勧告に従つてみてはどうでしょうか。みずから変わりたいと思ひながら、克服できそうもない困難に直面している人々には、彼ら自身にこの勧告に従うよう勧めてはどうでしょう。

そして彼らの助け手である私たちは、彼らの断食と祈りに私たちの断食と祈りを加えるのです。

天父は確かに、人の心を動かす方法をご存じです。アルマの場合はどうでしたか。使徒パウロはどうだったのでしょうか。人が真心から望むとき、大きな変化がおとずれます。「絶対に心を動かされない人もいる」と言い張る人がいるかもしれませんが、そのようなことはありません。必ず影響を受けるはずで、いつでも祝福を受け、助けを受けることができるのです。聖典には、はっきりこう約束されています。「愛はいつまでも絶えることがない。」(I コリント13:8) 確かに、愛はいつまでも続くものです。言い換えるなら、愛は個人個人に、私たちの中に、そして皆さんにも私にも、あるいはまわりの人々の中に奇跡を起こすのです。

ジョン・テイラー大管長のように、私もふさわしい人がふさわしい気持ちで、ふさわしいときにふさわしい方法で手を差し伸べていけば、改宗(再活発化と言うべきでしょうか)されない人はひとりもいないと確信しています。私たちが自分自身をよく整え、福音の原則に従って幸福な生活を送り、天父の助けを求めらるなら、その努力に応じた天父の祝福が与えられます。

世の中には、神権による祝福、教会のもたらす祝福、そして彼らがその恵みを知りさえすれば与えられるあらゆるものを熱心に求めている人が大勢います。それは、教会内においても例外ではありません。私た



ちの召しは、非教会員、不活発会員を問わず、兄弟姉妹が生活の中に福音の教えを取り入れさえすれば自分たちのものにできる祝福に気づき、理解するよう助けを与えることです。「わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」(マタイ 11:30)「神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教が神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう。」(ヨハネ 7:17) 主はこのように言われました。

私たちもニーファイのように自分にこう言いかけたいものです。「私は主が命じたもうたことを行って行く。私は、主が命じたもうことには、人がそれを為しとげるために前以てある方法が備えてあり、それではなくては、主は何の命令も人に下したまわらないことを承知しているからである。」(I ニーファイ 3:7)

主を愛し、主のみこころを行ないたいと思っている神権定員会のホームティーチャーや扶助協会の訪問教師、夫婦や親子、そして、全世界の教会員の皆さんが手を差し伸べる、困っている人々を助けるために求められる正しい働きに、愛とみたまをもって従事されますように。

一時的な興味や熱意からだけでは、思うような結果は得られません。そうではなく、祈りの気持ちで熱心に努力しましょう。そうすれば、思い通りの結果が、想像以上に多く得られるに違いありません。そして主の特別な祝福があなただけでなく、周囲の人々の生活にもたらされます。同時に私た

ち自身がより主に近づき、主の愛とみたまを感じることができるようになるのです。

ホームティーチャーへの提案

強調点：ホームティーチングのとき、以下の点を強調するとよい。

1. 私たちは教会員として、道を見失った人々を助ける責任を受けている。
2. 飢え渴いている人は多い。そしてその原因を知らない人すらいる。そうした人々の基となり得るのは、霊的な真理と原則である。
3. 私たちは、天父が私たちの心の琴線に触れられることを知っている。正しい望みを抱く人の人生には偉大な変化がおとずれる。慈愛の心を持ち続ける人にとって奇跡は必ず起きる。
4. 再活発化への努力は次の3つの条件を満たしたときに報われる。(1)備えをする、(2)喜んで福音の原則に従う、(3)天父の助けを求める。

話し合いのための提案

1. 再活発化に関して自分の経験や感じていることを話す。
2. このメッセージの中に、家庭で読んだり話し合ったりするのによい聖句や言葉はないだろうか。
3. 話し合いをより充実したものとするために、訪問する前に家長と話し合っておくとよい。定員会指導者や監督から家長にあてられたメッセージはないだろうか。

「温情と偽らざる愛とによって…」

あなたの伴侶の 宣教師となる

モーリー・H・ソレンセン

夫がステーキ部長会の第二副ステーキ部長に支持されるために説教壇の方へ歩いて行ったとき、私の心に言いようのない喜びが湧きあがりました。夫は救い主と福音に対する愛を証として述べてから、妻である私への感謝の言葉を言いました。私は、以前夫の書いたポスターを帰宅して見つけたときのことを思い出しました。そのポスターにはこう書いてありました。「私を信じてくれている妻が大好き」と。

「ぼくに聖餐会の話はいつさい頼まないことだね。絶対にするつもりはないんだから。」彼が強腰にそう宣言していたのはついこの間のことです。そんな彼が今ではステーキ部内でも人気のある話し手になっています。

また夫はこんなことも言っていたのです。「いくら君が劇に凝っているからって、ぼくにまで演じさせようっていうんじゃないだろうね。ぼくは俳優なんかじゃないんだから。」そんな彼が、実はステーキ部の演劇

ですばらしい主役を演じたのです。

「読書はきらいだ。」そう言い張っていた彼ですが、今では毎日聖典を読み、毎朝私たちに聖典のことを話してくれています。

「まだ神権はどう使ったらいいのかよくわからないんだ。」そんな言葉が聞かれたときもありますが、その神権の力で彼はいろいろなときに私たち家族に祝福を与えてくれています。

確かに私の夫は変わりました。16年前の彼は、ひとりの長老見込み会員にすぎなかったのです。

彼にこのような大きな変化をもたらしたものは何でしょうか。ご主人に対して宣教師の立場にあり悩んでいる姉妹たちに、私の考えを少し紹介してみたいと思います。私の経験から話しますので、妻の立場からの話になると思いますが、それらの原則は、奥様に対して伝道をしなければならぬ立場にある男性の皆さんにも応用できると思います。

主の説得の方法は、私たちが主のみたまを受けるにふさわしい生活をしていけば、自然に身についてくるものです。



失望することばかりが続いて起こると、どうしても自分の伴侶に対する信頼の気持ちが薄らいでしまいます。特に、霊的真理を身に受けている女性にとって、それらを夫と率直に話し合えないということは大きな悩みでもあります。そして夫に福音を理解し、認識してもらいたいという妻としての願いも、忍耐の限界にきてしまう場合があります。しかしこれらはどれも正常なことなのです。なぜなら、大きな喜びを味わった人がそれを愛する人々に分かち合いたいと思うのは当然のことだからです。ところがこうした場合、非常に微妙な変化が起こってきます。普通男性は家族の長として、リードされるのではなくリードしていく立場にあります。結婚においては伴侶として同等の立場にある女性も、実際はリードしてくれる夫を助け、支持するものです。その夫が不活発であったり、教会員でなかったりすると、妻は非常に困った状況に置かれてしまうのです。よくあることですが、妻のほうが日曜日の礼拝行事や家庭の夕べその他の教会の活動に参加したいと思っても、心の葛藤があったり、夫と実際に意見が衝突したりということで、家庭に一致と霊性をもたらそうとする目的がくじかれてしまうのです。

では夫に伝道する立場にある女性はどこに支持や助言を求めたらよいのでしょうか。まず聖典を学ぶことによって深い洞察力が得られます。たとえば私の場合は、天上の大会議とそれに関する事柄を勉強していて、大切なことを学びました。

サタンはすべての人を強制的に天父の原則に従わせようとする計画を提案しました。「われことごとく人類を贖いて一人だに失うことなからしめん。」こうサタンは言いま

した。

しかし、天父は「主なる神のすでに人に与えたる人の自由意志を滅ぼすことはなさいませんでした。そのかわり、天父はご自分の独り子を通してその救いの計画を可能なものにされたのです。それによって私たちは選択の自由を行使することができるようになりました。(モーセ4：1-4参照)

この聖句から考えると、他の人に無理に福音を受け入れさせようとするのは、天父の喜ばれることではないという結論が出てきます。天父は人々が再びご自分のところに戻って来ることを、しかもそれを人々が自由意志と選びによってなすことを望んでおられます。天父は与えられた真理が正しい良いものであって、しかも大きな喜びをもたらしてくれるものであるという確信を彼らがみずから手で得るよう望んでおられるのです。そのためには、だれでも自由に経験し、自分の力で真理を見つけなければなりません。

教義と聖約には、感化することのできる方法が出ています。

「ただ説服と堅忍と柔和と温情と偽らざる愛とによる。また、親切と浄き知識すなわち偽善にあらざり奸智にあらざりしてその人を基た大いならしむるものによる。」(教義と聖約121：41-42)

主の説得の方法であるこれらの特質は、私たちが主のみたまを受けるにふさわしい生活をしていれば、自然に身についてくるものです。私は、妻は夫を励ましたり夫の光となることはあっても、生活を変えるのは主のみたまであることを知りました。

ガラテヤ書5章22節から23節に、このように記されています。「御霊の実は、愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、柔和、

自制である。

妻たちに、夫と良い関係を築くために愛や慈愛、柔和などの特質を持っているようなふりをするよう勧める人々もいます。しかしそのような見せかけは偽善をとがめられた救い主を無視していることとなります。

私はまず、私たちの心の奥底にある、信仰を批判し信仰から離れようとする気持ちを捨て去る必要があることに気づきました。そのためには、私たちが今持っている以上の力が必要なのです。天父は人を変える力を与えてくださいます。批判的な良くない気質を小さな子供たちのようなやさしいものに変えてくださるのです。「神よ、わたしのために清い心をつくり、わたしのうちに新しい、正しい霊を与えてください。」(詩篇51:10) 私たちは天父にこのように願うことができます。天父は私たちが伴侶に対して理解を深め、彼らの性格の中にあるすばらしい愛すべき特質を見つけ出す力を祝福として与えてくださるでしょう。

私たちを失望させたことのある相手を愛することは簡単なことではないかもしれませんが、私たちには、愛することをむずかしくさせるような行動をとる人でさえ愛せるようになる力が、みたまによって与えられると約束されています。

「それであるから、私の愛する兄弟らよ、あなたたちは、神が御子イエス・キリストに真に従う者たちに一人のこらず与えたもうたこの愛で自分たちの胸を満すためにありたけの心をつくして御父に祈れ。」(モロナイ7:48)

みたまの助けによってこのようなすばらしい特質を身につけたある姉妹は、次のように話しています。「私は夫がすべきことをしていないということに失望するあまり、

彼のしていた良いことまで認めないでしまうときがありました。私は法律などの条文にだけ心を奪われて、愛や忍耐、寛容、信仰などもっと大切なことを忘れていたのです。私は夫が変わることをあまりにも性急に求めすぎていると思います。

とにかく、私は自分が間違っていることに気づきました。私は夫に絶望的な態度をとっていたのです。私はまず自分の気持ちが変わるように、断食と祈りによって主に助けを求めました。するとまるで奇跡のように、私の気持ちが少しずつ変わり始めたのです。私は生活の中にみたまの温かさを感じれば感じるほど、批判的な気持ちが自分の中から消えていくのを感じました。それだけでなく、今まで見過ごしにしていたいろいろな方法で夫を愛し尊敬できるようになってきたのです。私は、子供たちに対する彼の忍耐心、他の人々に対する寛容さ、明るい性格、器用さ(普通半日もかかるものを、1時間たらずで仕上げしてしまうのです)などに感心するようになってきました。

もちろん、今でも教会に活発になってくれればと願ってはいます。でも私は、彼は彼なりに成長していくのをじっくり見守れるようになってきました。私は、彼が信仰の面で安心して成長していけるように、愛の模範になりたいと願っています。また私の行ないによって、イエス・キリストの福音が本当にすばらしい、心を打つものであることを夫にわかってもらいたいと思っています。」

これとは対照的に、恨みや怒り、絶望感、争いの気持ちを説得の手段としている姉妹はどうでしょうか。そのような姉妹は、事態がうまくいかないことにいら立ち、イエス・キリストの福音が教えていないような



態度をとってしまい、その結果夫をさらに遠くへ押しやり、福音の甘さを味わってもらえなくなるのです。

サタンは、私たちが愛をもって人々を感化するのを妨げようとしています。なぜなら愛こそ私たちの最も強力な手段だからです。

サタンは私たちに争いをさせ、人に強制させようとしています。また私たちに霊の糧である祈りや断食、勉強を怠らせ、忍耐力を失わせようとしています。そしてパリサイ人のように、儀式について論争させ、原則を忘れさせるのです。たとえば、家庭の夕べを開

くことは正しいことですが、妻が夫を当惑させ、家庭の夕べを無理じいすることは正しいことではありません。不活発な、あるいは教会員でない夫を持つ妻は、律法の中に守れないものがあってもそれに甘んじて、夫がリードしてくれるようになる日を忍耐強く待たなければならないことがしばしばあるでしょう。しかしそのような場合でも、「律法の中でもっと重要な」(マタイ23:23) 事柄は放っておくべきではありません。

なぜならそれらは妻が夫に対して「悪(不平、説教、裁き)を行う性質をなくして常に善を行」えるよう助けを与えてくれるみたまの賜だからです。(モーサヤ5:2参照)

おそらくだれにでも、集会に出てみたまに満たされ、温かい愛を感じた経験があるでしょう。そのような場合、家に帰ってからもその余韻は残っています。愛や喜び、約束に満たされて世界中が違って見えるのです。そして集会に行く途中におしゃべりをしてうるさく思った子供たちが、天使のようにさえ見えてくるのです。

それこそみたまの力、すなわち愛、平安、喜びなのです。私たちは日々そのような力が得られるよう祈るべきです。この力によってのみ、私たちの結婚生活を破壊しようとするサタンを克服し、さえぎることができるのです。

ある日、扶助協会のあとでひとりの姉妹が涙を浮かべながら私のところにやってきました。「私、もう主人のことはあきらめようと思うんです。1年で少しは変わってくれると思ったんですけど、去年と同じ、少しも活発になる気配がないんです。主に見捨てられたような気持ちです。どんなに夫が変わってくれそうになくても、努力は続けていくべきでしょうか。」

よく話を聞き気持ちを察したうえで、私はこう尋ねました。「まだ努力は続けているとおっしゃいましたね。では1年前あなたがご主人との関係にそのような希望を託したときのように、これまでずっと自分自身の霊を養ってこられましたか。」

「いいえ。」彼女は答えました。「どうも祈る気持ちになれないんです。別の家に移ってからは勉強の時間がとれませんし……。」

「私の場合は……」そう言って私は自分のことを彼女に打ち明けました。「夫との関係に信頼をなくし始めたとき、つまり自分が批判的になってきたときですが、私自身がみたまに飢えかわっていたのです。でも私の方がもう一度やさしい気持ちを取り戻し始めると、今度は今までと違った新しい信頼と愛をもって夫を見れるようになってきたんです。」

それから数週間後、彼女は私に電話をかけてきて、再び霊の糧を得る計画を始めることによって、もう一度夫との結婚生活に希望を持ち始めたと話してくれました。そしてこうつけ加えました。「私が間違っていました。夫は変わっていたのです。ただそれがあまりに小さい変化だったので、私の方で見過ごしてしまったのです。」

毎週救い主を思い起こすためにパンと水をいただくとき、私たちは主の戒めを守るならみたまを伴侶とすることができるという約束を受けます。そしてこの主のみたまによって、夫婦はお互いにとってどうあれば本当の助け手、力となれるかを知ることができるのです。

*モーリー・H・ソレンセン：10児の母、カリフォルニア州ナパワード部日曜学校教師

質 疑 応 答

●本誌の解答は問題解決の一助として与えられたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。

主が再臨されるときは どこに来られるのでしょうか。



解答者
アーサー・R・バセット
(プリガム・ヤング大学
人文学部準教授)

救い主の再臨に関して、私たちは完全に知らされているわけではありません。しかし主は、福千年に先立って起こる主な出来事をいくつか述べておられます。それによると、主の再臨の前には何度か主

ご自身が姿を現わされることが明らかです。

主はこれまでも、再臨に備えて幾度か姿を現わされました。最初は聖なる森で予言者ジョセフ・スミスに現われ、それから1836年4月3日、オハイオ州カートランドの神殿の献堂式のあとに姿を現わされました。(教義と聖約110：1-10参照)

次に明言されている主の現われは、ミズーリ州のアダム・オンダイ・アーマンに神権指導者たちが集合するときです。地上のあらゆる時代を包括するこの出来事について、予言者ジョセフ・スミスは次のように述べています。

「ダニエル書7章の中で、ダニエルは『日の老いたる者』について語っている。それはとりもなおさず我々の父祖アダムすなわちミカエルのことであり、彼は自分の子孫を召集し、人の子の再臨に備えさせるための会合を開くのである。彼（アダム）は人類家族の父であり、すべての人々の霊を管理している。また鍵を持つすべての者は、この大いなる会議にあってアダムの前に立たなければならない。そして人の子がアダムの前に立たれ、そこで栄光と統治する力を受けるのである。アダムは全人類の鍵を持つ者として授けられていた管理の職をキリストに引き渡すが、人類家族の長としての立場は変わることなく維持し続けるのである。」(「教会歴史」3：386-87)

このようにして、キリストは合法的に再びこの世の統治者となり、力を行使する事実上の支配者となられるのです。そしてこ

の力は、キリストがユダヤ国民に長い間待ち望まれたメシヤとして来られるエルサレムの戦場で、初めて人々の前に示されるのです。予言者ゼカリヤはこの出来事を次のように記しています。

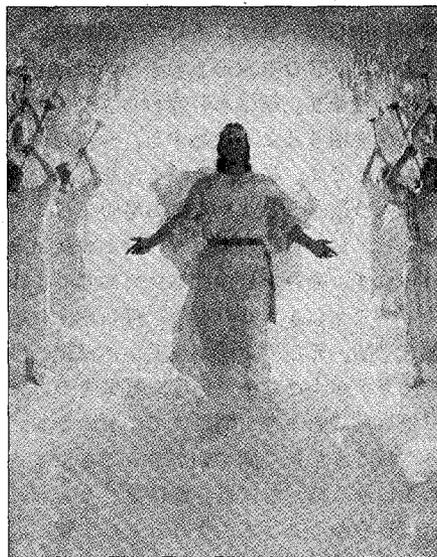
「わたしは万国の民を集めて、エルサレムを攻め撃たせる。町は取られ、家はかすめられ、女は犯され、町の半ばは捕えられて行く。しかし残りの民は町から断たれることはない。その時、主は出てきて、いくさの日にみずから戦われる時のように、それらの国びとと戦われる。その日には彼の足が、東の方エルサレムの前にあるオリブ山の上に立つ。そしてオリブ山は、非常に広い一つの谷によって、東から西に二つに裂け……。」(ゼカリヤ14：2-4)

ユダヤ人がこの谷に逃れ、主の怒りが邪悪な人々の上にくだったのち、ユダヤ人の指導者は主の体にあるはりつけの傷跡に気づき、主が歴史に述べられたキリストであることを知るので。(ゼカリヤ13：6；教義と聖約45：51-53参照)

しかしこれらは皆荘厳な、また全世界を感化する主の現われ、再降臨の前ぶれにすぎません。この主の再臨に関して地名や地理的な事柄について特に指定された資料を私はまだ知りません。この出来事を記している人々は、むしろ「福千年の統治」「サタンの束縛」「邪悪な人々の滅亡」「義なる人々の復活」「エノクの町の再建」などの「先触れ」の偉大さに畏怖しています。記録者たちの頭の中では場所自体よりもそれらの出

来事の方が優先していたようです。現時点であえて主の再臨の場所を推測してみると、かなり有力な理由から、どちらも福千年統治の首都となる旧世界のエルサレム、新世界の新エルサレムのどちらか一方あるいは両方になるのではないかと考えられます。この福千年の時代に、救い主がどのような行動をされるかについても詳しい記録はありません。このことについて私たちが知っているのは、予言者ジョセフ・スミスが述べている次のことだけです。

「キリストと復活した聖徒たちは、千年間地上を統治する。しかし彼らはおそらく地上に住むことはなく、彼らの望むときにあるいは治める必要のあるときに地上を訪れるであろう。」(「教会歴史」5：212)



近きにおいて遠きもの

自閉症児とともに



カーメン・B・ピングリー

この愛らしい3歳になる私たちの息子は、何時間も何時間もそこで体を揺さぶっているのです。窓越しの午後の日ざしとその整った体と何ら欠点のない容姿を照らし出しています。そしてその前を、息子の名前を呼びながら上の子たちが走り過ぎていきます。彼はあい変わらずリズムカルに体を揺することに熱中し、一点を見つめたままです。私たちは、そんな息子の世界に入り込もうと並々ならぬ努力をしてみました。しかしその努力も何ひとつ受け入れられず、夜寝かしつけるためにおやすみのキスでもしようものなら、押し返される始末です。そして2階の寝室からは眠いはずの息子が小さな手で何度も電気をつけたり消したりする音が聞こえてくるのです。こうしてまたたく間に朝がやってきます。しかし彼は私たちに声をかけることもなければ自分からやってこようともしません。そんな息子に服を着せてやり、また同じことの繰り返しが始まるのです。

「近きにおいて遠きもの」、英国の詩人ア

ルフレッド・テニソンのこの言葉は、無意識のうちに私たちの息子ブライアンのことをさしているように思えてならないのです。

息子のブライアンの成長を見ていて、彼の奇妙な行動に対する私たちの不安はつもの一方です。さらに彼のいろいろな態度から、とても気げんよさそうに見えるときでさえその心をとらえることができず、私たちは戸惑うばかりです。彼の肉体的、社会的、精神的成長がまるで不規則なのです。ブライアンはたった一度聞いただけで讃美歌のメロディーを完璧にハミングできるかと思えば、ミルクをねだることすらできないのです。また掛け金や鍵を素早くはずせても、フォークを正しく使うことができないのです。

私たちは、ブライアンの知覚の反応にも異常があることに気づきました。においを少しも気にしないときがあるかと思えば、全部においをかがないうちは食べ物に口をつけようともしないときもあります。また鍋を落としたときのような大きな音に無

とん着かと思えば、隣の部屋で父親があめの紙をむいている音にも気づくといった具合です。さらに、頭などを強くたたかれても何の反応を示さないかと思えば、手でほんのちょっと触れただけのことに、顔が真っ赤になるほど背中を後ろにそらせたりするのです。そんなとき、あやそうとしてもそれを拒む息子に私はひどく心を悩ませました。私は彼の苦痛を増しているだけのようでした。

月日がたつにつれ、ブライアンという言葉の発達が正常でないことで、私たちの不安はさらに大きくなっていきました。めったに話そうとはしないのですが、言葉を出そうとすると自分の気持ちを表わすのではなく、人の言ったことを繰り返すロボットのような話し方になるのです。彼にとっては、言葉は単なる意味のない音の集まりにすぎないのです。

おそらく家族にとって最大の悩みは、ブライアンの人に対する無関心な態度ではないかと思います。家族の活動に加わろうともしなければ、兄や姉たちの思いやりにもこたえず、人の持ち物を奪ふ気持ちも十分にはないのです。ブライアンはいろいろな器具を壊したり、本を破ったり、金魚ばちに物を投げ入れたり、絶えず家族を悩ませてきました。危なくないように隠してあるドライバーでも見つけようものなら、暖房機やドアのちょうつがい、コンセントなどがいじくりまわされてしまうのです。あるとき皿洗い器を取りつけに来た人のドライバーを持ち出して外に行き、取りつけにかかる前に、その人の乗ってきたトラックのバックミラーとテールランプを全部取りはずしてしまっただけがありました。

ブライアンに物が壊されないようにするために、家中のドアというドアに鍵をかけ

★自閉症とは何か

自閉症というのは、普通生まれて3年位のうちに現われるひどい無能力症状、すなわち生涯にわたる发育障害のことです。これは基本的な症状で見ると、約1万人に5人の割合で発生していることになりませんが、これを定義を広範囲にして考えると、発生率は約3倍になります。そしてこの自閉症というのは、女性よりも男性の方に4倍も多く見られ、人種、民族、社会的背景に関係なく世界中で見受けられます。では自閉症の徴候とはどんなものでしょうか。

1. 肉体的、社交的発達、学習面での発達

- が遅かったりまったくなかったりする。
2. 話し方のリズムが未熟で、いろいろな概念に対する理解力が乏しい。正しい意味を考えないで言葉を使う。
 3. 知覚に対する異常な反応。視覚、聴覚、触覚、痛み、バランス、嗅覚、味覚、体の支え方のいずれか、あるいはいくつか組み合わせざったものが冒^{おか}されている。
 4. 人や物、出来事とのかわりあい方が異常である。
 5. 多くの自閉症の子供は、音楽や数学、空間的な考え方（たとえばジグソーパズルのようなもの）などの面では秀でているが、他の分野では極端に遅れている。

なければならなくなりました。また通りに飛び出して車にかけ寄るのを防ぐために、外側のドアは二重にロックされています。彼には危険というものがわからないらしく、ぶつかりそうになる車が急ブレーキをかけても、表情が少しも変わらないのです。あるときは、高い場所のとりこになって、よく2階の窓の出張りに立っていたことがありました。こうしたびっくりするような出来事の連続に、私たちは肉体的にも精神的にもすっかりまいってしまいました。

今思えばもっと早く治療を受けていればよかったのですが、かわいらしい一見「正常」な赤ちゃんの中でそうした症状がじわじわと起こり始めているときにそれをはっきりとらえるのは大変むずかしいことなのです。彼の場合は、抱いてあやす必要もないほど泣くことのないきげんのいい赤ちゃんに見えたのです。その後の態度や動作でのいろいろな問題も、手に負えない時期の特にひどい例であり、2歳児の成長過程にあっては普通のことであると解釈していました。言葉の遅れも未熟児のため、また4人の上の子供たちが皆ブライアン^のの代わりをしてきているためとっていました。また他の人に無関心という点も、我が家ではめずらしいことではなく、むしろ「自立心」のある子という見方をしていました。私たちはこの子に愛と関心を向けていけばどうかその問題からは「抜け出られる」だろうと考えていました。

しかしブライアンが3歳になったとき、事態はさらに悪化し、私たちはついに医師に助けを求めることにしたのです。

私たちは診断を求めて次々に専門家のところを回りました。その結果私たちに返ってきた答えは「情緒障害」や「虐待」そし

て単純に「非常に不幸な星の下に生まれた子供」といった診断でした。愛をもって何とか息子を助けてあげたいと思っていた私たちにとって、その診断の言葉は胸に刺さりました。「精神発育不全」「極小脳細胞」「神経系未発達」といった他の診断も幾分ショックをやわらげてくれたものの、私たちにとっては何の助けにもなりませんでした。どれもあてはまるものはなく、彼の行動を変えるためのこれといった提案をしてくれる人はいませんでした。

以前から「自閉症」という言葉を知っていた私たちは、必死の思いで新聞に出ていた一日がかりの自閉症児のためのワークショップに出てみました。その結果、不安と安堵感の入り混じる中、私たちはブライアンが自閉症の特徴と徴候にぴったり合致していると確信を得たのです。そして自閉症というのは生涯にわたる発育上の疾患であり、このような人々の95パーセントは特別な施設に入らなければならないこともわかりました。これがいろいろな面で限界を帯びた問題であることがわかると、ブライアンの伝道や結婚に対する私たちの夢はまたたく間に崩れていきました。

こうした知識は私たちを非常に落胆させましたが、彼の悩みの本質がやっとわかったことで気持ちが幾分楽になりました。こうした状況に当惑し孤独になっていた私たちは、自閉症児をかかえる他の両親たちと会い、悩みを分かち合うことで大いに慰められました。私たちが経験すると同じようなことに共感しユーモアを見せる彼らの姿に、私たちの荒れた心は静められ、自分たちだけがこのような問題と取り組んでいるのではないという認識を得たのです。そのうえ、この親たちは家庭療法のテクニック



自閉症というのは生涯にわたる発育上の疾患であり、このような人の95パーセントは特別な施設に入らなければならない。

や自閉症にくわしい医師名、ブライアンのような子供たちへの教育を目的とした地域のプログラムなど、いろいろくわしい情報を提供し、かつ紹介してくれました。何よりもすばらしいことは、そのような親たちが私たちの自責の念をやわらげてくれたことです。こうして自閉症児をかかえる親に

会ってからというもの、私はたちまち彼らも他の人々と何ら変わらない正常な人々なのだと思うようになりました。悩みや不安、希望などを話してくれるこの新しい仲間は、私たちと同じような気持ちを抱いていたのです。しかし彼らはもっと理知的で慈愛にあふれ、冷静でした。これが、私たちがブ

ライアンの状態に対して少なからず抱いていた自責の念を取り払ううえで力となりました。

自閉症児に対するこれといった効果的な医学療法はまだ何もないのですが、私たちはこれまで自閉症児の行動の改善に効果を表わしてきたある種の行動療法というものがあるという記事を読み、大いに励まされました。ところが地域のそうしたプログラムにライアンを参加させ、訓練を受けさせるには数年間待たなければならないことがわかったのです。夫と私はとにかく独自の計画を練ることにしました。私たちは、施設の受け入れ態勢ができるまで家庭に同じようなプログラムを取り入れることにしました。私は、全精力をこのチャレンジに傾けられるように、扶助協会の会長の責任の解任を祈りの気持ちで願い出ていました。事情をよく察してくれた監督は、それを承諾してくれました。祖母たちが忍耐強く守りをしてきている間、私はセラピスト（療法士）としての訓練を受けるため、自閉症児の施設でボランティアとして働きました。私たちは家の改築計画を見合わせ、将来のために貯えておいたお金を使ってプ

ライアンを家で訓練してくれるふたりのセラピストを雇いました。私たち3人は交替で訓練にあたりました。またできるだけ主人や他の子供たちにも協力してもらいました。

ライアンが訓練の各段階を踏むたびに、私たちは彼の進歩に目をみはりました。そして私たちは彼の一つ一つの努力の結果を喜び合いました。このような家庭でのアプローチは、ライアンとの積極的な良い関係を築けたことからみても、申し分のないものでした。しかし、そうした多くの時間と精力をライアンに注いでいた私たちは、他の子供たちをなおざりにしてはならないことに気づきました。

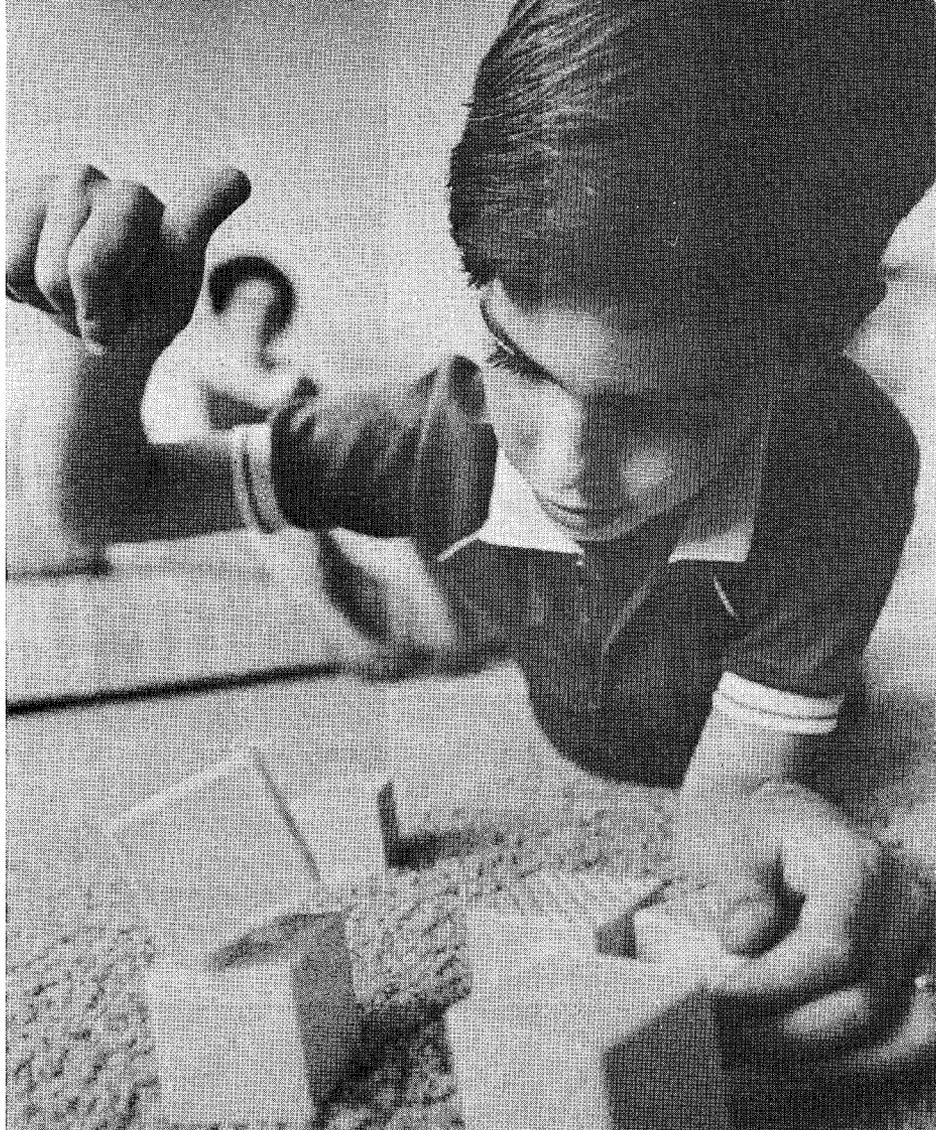
ライアンも今は自閉症児の施設に入っていますが、家庭での彼に対する私たちの努力は終わったわけではありません。今は将来に対する胸ふくらむ希望もより現実的な考えにとつかわり、「融通性」という言葉がモットーになっています。彼にとっては、きょうびつたりのクラスや訓練も、来月あるいは来年には役に立たないかもしれないのです。はっきりしていることは、ライアンが非常に大変な十代の時期を過ご

★教会の指導者は どのような助けが できるか

ユタ州ソルトレーク・シティで開かれた最近の全米自閉症児協会の大会で、レックス・D・ピネガー長老は、自閉症児の両親への配慮について勧告を交えながら話をしました。七十人第一委員会のピネガー長

老は、特別な必要を持った人々を対象とした教会の委員会の代表です。こうした子を持つ親たちは、子供自身が自分の状態に気づくずっと以前に問題を認知せざるを得ないわけですが、ピネガー長老は、そうした親たちがどれほどの衝撃を受けるかを理解すべきであると述べ、さらに子供に障害があるのは親の責任ではないことを親に再認識させる必要があると語りました。

ピネガー長老はさらにこう述べています。



源であり心の支えです。

〒162 東京都新宿区西早稲田 2-2-8

全国心身障害者福祉財団

自閉症者親の会全国協議会

Tel.03-203-1211

5. 自閉症児（あるいは他の障害児）のために地域で積極的に働く。教会の奉仕で

身につけたあなたの指導性や組織化された技術は、地域で大いに歓迎されるはずです。あなたには重要な貢献をする力があります。同様に、教会員でない人々の働きや友情は、あなたの生活にとって祝福となるでしょう。

6. 家族全員に積極的な学習体験をさせる。家族全員で話し合うことにより、家族

一人一人に自分の気持ちをよく理解させ、困難な問題をかかえた人々に対する彼らの同情心や慈愛心を育むことができます。子供たちは年齢と能力に応じていろいろな治療上のプログラムに参加することができます。自閉症の子供とは別に、他の子供たちとも質の高い時間を過ごすようにし、彼らをいら立たせないように注意してください。

7. あなた自身のことにも気を配る。親として、あなたは家族を幸福にする鍵を握っています。自分の好きなことや個人的に満足できることをする時間も作ってください。どうしても専門家に相談する必要があると思う場合はそうすることです。自閉症児は、夫婦間にとっても大きなストレスとなります。ですから、たえずあなた自身と伴侶との間の事柄に細心の注意を払うようにしてください。

8. 祖父にもたえず連絡をとり協力してもらおう。彼らはその子供のことでなく親であるあなたの方のことも心配してくれています。彼らも大きな力と慰めになってくれているはずです。

9. 子供やあなた自身が特に必要としていることを監督と話し合う。あなたの置かれている状況をワード部の会員たちに話せば、彼らは理解を示し、助けを与えてくれるでしょう。あなたの方から心を開かなければ、たいていの人は、間違っただけを恐れるのではないかと恐れるから何も言ったりしなかったりしなくなります。彼らに機会を与えてください。献身的なホームティーチャーや特別な人たちから子供が訓練を受けたり世話をしてもらったりすると、家族全体に大きな変化が生まれます。

10. 神を信頼する。このようなチャレンジを経験することはなるべく避けたいので

すが、それによって私たちは神を信頼せずにはおられない状況に立たされます。私たちが神に助けを願うことを忘れなければ、みたまはどんなに失望したときにも慰めを、またジレンマに陥ったときには導きを与えてくれます。そして大きな責任に直面したときにはさらに豊かな能力を与えて導いてくれます。さらに私たちは他のいかなる方法でも得られない忍耐心や心の平安、人生に対する見解を身につけることができるのです。

11. 他にどんな犠牲を払わなければならないか、ユーモアのセンスを持ち続ける。全精力を使い果たし神経が張りつめているとき、ユーモアのセンスはその緊張をほぐしてくれる唯一のものであります。

ブライアンと葛藤を見守りながら、わたしたちは自分自身のことについてたくさんを学びました。実際、私たちは皆それぞれにみたまの力を無視してみたり、福音に対する反応に波があったりと少なからず自閉的な面や障害を持っていると思います。ブライアンがより私たちの行動に似た新しい行動を身につけていくために限らない努力がいるように、私たちが習慣を変え、少しでも救い主に近づくためには、絶えず聖典や指導者からの励ましが必要です。私たちに求められている大きな忍耐心は、私たちの遅い進歩に心を痛めながらも見守ってくださっている天父の限らない忍耐心を考えると、当然のこのように思われます。確かに私たち自身にも「近くにありて遠きもの」のようなときがあるのです。

*カーメン・B・ピングリー姉妹：7児の母親、ユタ州自閉症児協会会長（ボランティア）、ソルトレーク・シティ在住、ワード部若い女性会長



彼は多少おびえつつ強引さを見せながら、しかし明らかに落ち着かないといった様子でセミナークラスに入ってきました。彼は学校のクラスのほとんどの人がセミナーに来ているという理由だけ

で、しかもひとりでやって来たのです。彼には話しかける人も、一緒に歩いてくれる人もなく、これといった友達もいませんでした。

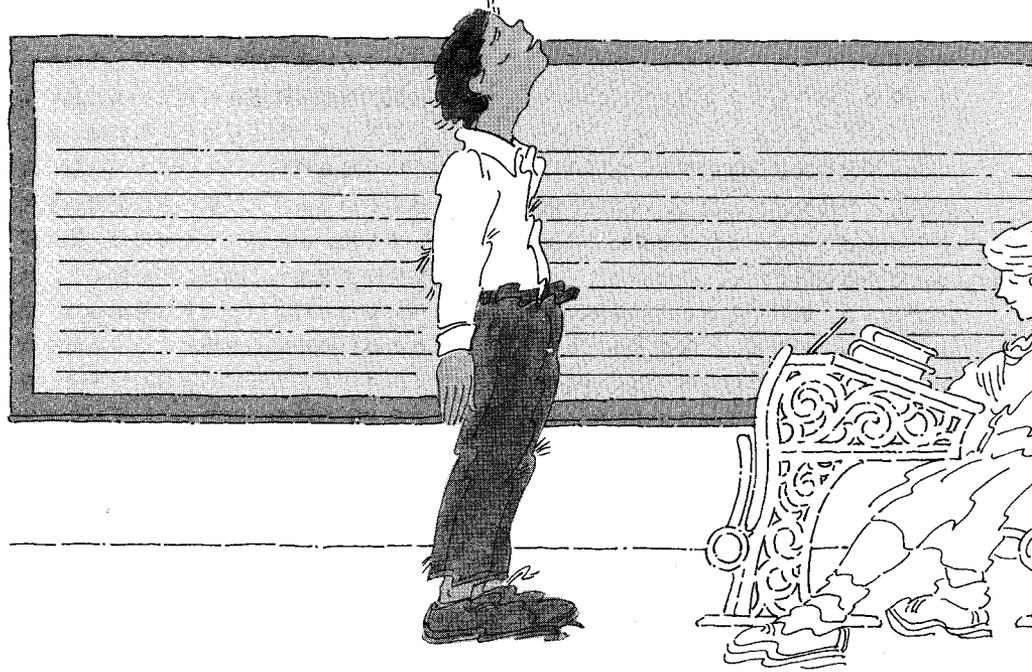
幼い頃の彼の生活は、とても厳しくつら

特別

ああ神様、
私たちを
お助けください。
アーメン。

な人

フランク・D・デイ



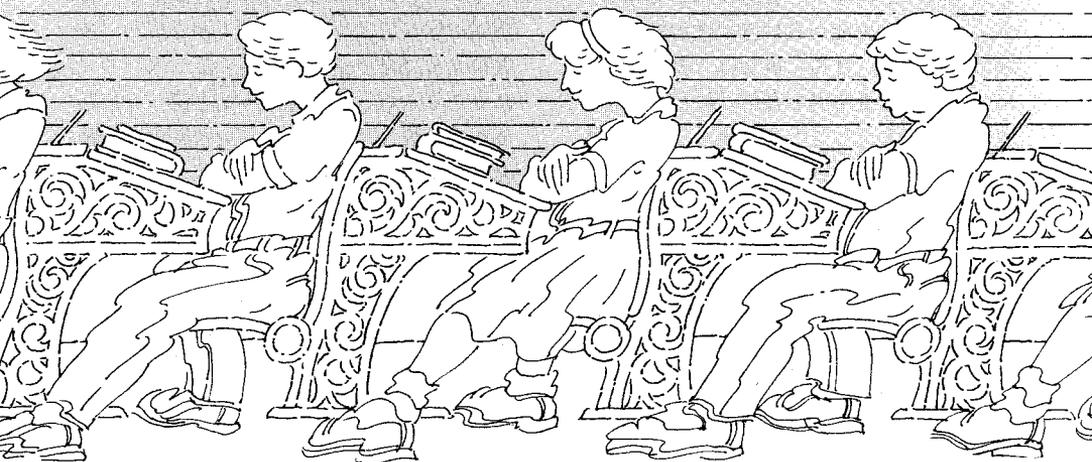
いものでした。父親は酔っぱらいのけんか
で命を落とし、母親といえば子供たちを教
会へやることも学校へやることもまるで関
心がないといった人でした。母親は国から
経済的な援助を受けていましたが、そのほ
とんどが自分のために、あるいは男友達の
ために酒代として使ってしまった。家には
ほかに子供がふたりいましたが、父親は
皆違っていました。

家では食べ物や衣服を含め、生活の最低
必需品にも事欠く有様でした。彼にとって
寒い日に暖をとるものといえばたった1枚
のセーターぐらいなもので、そのセーター
も彼は学校に着く前に必ず脱ぐようにして
いました。それはセーターに大きな穴が空
いていて、それをほかの人に見られなくな
かったからです。またくつ下すら持ってい

ませんでした。家では水しか使えず手洗
用の石けんもないため、彼の手にはあかぎ
れができ、ひどく荒れていました。また体
はやせ細って、体力もありませんでした。
食べ物も十分になく、口に入るものといえ
ば粗末で栄養のないものばかりでした。彼
は町はずれのあまり環境のよくない所に住
んでいて、その地域のどこへ行っても不愉
快な思いをしていました。

クラスに来た最初の日、私は彼に最前列
に座るように勧めました。すぐにそれに応
じたものの彼はどうも居心地が悪そうでし
た。私は彼と親しくなろうとしましたが、
なかなか大変でした。人を信用していな
かったからです。

こうしてレッスンは数週間続いたあと、
私は彼にお祈りをする気はないか尋ね



ました。彼はすぐにきっぱりと断わってききました。私はあとになって、彼がクラスに来た最初の日に初めて「祈り」いう言葉を耳にしたことを知りました。彼は教会へ行ったこともなければ神権など受けたこともなかったのです。こうして何日かが過ぎましたが、彼には人と会話をしたり、笑顔を見せたり、友達をつくろうとしたりする気配はいっこうに見えませんでした。

クリスマス休暇を1カ月後にひかえたある日、ひとりの女性が話し合いたいことがあるのでクラスで時間をとってほしいと言ってきました。その日、この青年は欠席していました。彼女はみんなの前に立つと簡潔にこう言いました。「私たちは彼と話すこともしなければ一緒に歩くこともしません。つまり仲良くなろうとしていません。これはとても良くないことだと思います。彼だって大切な人です。」それから彼女は皆が彼と仲良くし、彼が自分自身にとってまた彼らにとってどんなに大切な存在であるかをわかってもらえるよう努力すべきであると言いました。生徒たちは皆、彼女の意見に賛成しました。さらに彼女は、みんなでいくらかずつお金を出し合い、彼にクリスマスプレゼントとして上着を贈ってはどうかと提案しました。みんなはこれにも大賛成しました。彼らのこの努力が成功したかどうかをわざわざ伝えるには及びません。その結果は彼の目に、彼の歩き方に、そして、彼の笑顔に表われています。彼の生活が変わったことはだれの目にも明らかでした。彼の歩き方は少し堂々としてきました。また人々の目を見て、ほほえみながらやさし

くあいさつを交わすことができるようにもなりました。

ある日、私は自分の机の上に次のようなメモを見つけました。「きょう、お祈りを希望する人がだれもいなければ、私にさせてください。」そして彼の名前が書いてありました。不思議なことにその日に限ってだれもお祈りを申し出る人がいなかったのです、私は彼に頼みました。彼は目も閉じず、腕も組みませんでした。頭も下げなければ私たちが普通お祈りをするときのような格好は何ひとつしませんでした。彼は両手を下げたまま天井を見上げて言いました。「ああ神様、私たちをお助けください。アーメン。」笑う人はだれもいませんでした。だれも何も言いませんでした。それは彼にとってまたクラス全員にとって本当にすばらしいお祈りだったのです。

クリスマス休暇の始まる2、3日前、彼を助けることを提案した若い女性が、きれいに包装されたクリスマスプレゼントを持ってクラスにやって来て、また話し合いの時間を作ってほしいと言ってきました。彼女は立って自分の提案を快く受け入れてくれたことに対して感謝の言葉を述べました。それから彼女は少しの間、生活状態や家庭環境、学歴、評判などに関係なく人は皆それぞれ個人として大切な存在であることを話しました。最初は不信感を抱いていたその若者も、彼女が自分に新しい経験をさせようとしてくれていることに気づいたようでした。それから少しして、彼女は彼の腕に手を回し、彼を自分のわきに立たせました。そしてみんなが彼にどんなに感謝して

いるか、また彼がクラスにとってどんなに大切な存在であるかを話しました。彼女はみんなが本当に彼に感謝していること、友達になれて喜んでいることを伝えました。彼はすでに目に涙を浮かべていました。私もそしてクラスの生徒全員がそうでした。それから彼女がプレゼントの包みを彼に手渡すと、彼の目にはまた涙があふれてきました。少しして、クラスの別の男の子が言いました。「さあ！開けてみて。」

ゆっくりとていねいにそして紙を破らないように細心の注意を払いながら、彼は包みを開け、すばらしいジャケットを持ち上げました。彼の顔には感謝の気持ちが表われていました。クラスの人たちも同じ気持ちでした。それからまた同じ男の子が言いました。「さあ、着てみて！」彼はファスナーをはずすとジャケットの両そでにゆっくりと腕を通しました。そして着終わると涙を浮かべながらも、うれしそうに笑顔をみせました。こうして彼は5月の最後の週末まで、このジャケットを毎日着てきたのです。

彼の生活の中に以前には決して起こり得なかったことが起こったのです。そうです。だれかがくれたプレゼントに、今まで彼が受けたこともない感謝と愛が込められていたのです。あとになって私たちに話してくれたことですが、彼は14歳のときに、たった一度クリスマスプレゼントをもらっただけでした。それもたった1個のオレンジでした。

言うまでもなく、この若者の生活は変わりました。彼は学校の授業も楽しく受けるようになりました。またいろいろな活動に

も参加し、他の生徒からも好かれるようになり、大勢の友達ができました。話がここで終わればこれはすばらしい物語として伝わり、人の価値というものに気づいたその若い女性が奇跡を行なったということになるでしょう。しかし奇跡はまだ続いたのです。その後、その若者は伝道に出、神殿結婚をして今ではふたりのかわいい子供の父親です。そして彼の異父姉妹も神殿で結婚しました。彼女とご主人はふたりとも教会で活発に働いています。3番目の異父兄弟も伝道に出て、大学も立派に終えています。そして彼らの母親、そう、あの母親は、自分の息子の価値を認めてくれ、素直に気持ちを表わしてくれたあの若い女性のことや他のいろいろなことを毎晩天父に感謝しているということです。さらに彼女は悔い改めと赦しの偉大な原則を天父に感謝し、教会の会員としていられることをうれしく思っています。また家族が変わるように助けてくれたやさしい救い主を天父が与えてくださったことに感謝しています。そして今彼女は、ワード部扶助協会の書記として働ける特権と、扶助協会の姉妹たちの愛と親切を天父に深く感謝しているのです。

確かに彼は「特別な人」でした。またクラスの人々も特別な人たちでした。このすばらしい分かち合いの経験を通して、私たちは偉大な教訓を得ました。そして、予言者ジョセフに与えられた「人の値は神の前に大いなることを憶えよ」(教義と聖約18:10)という救い主のあの力強い言葉の意味をより確かに、より深く知ったのです。

義の

武器

七十人第一定員会会長
カーロス・E・エイシー

小学生の頃、アーサー王と円卓の騎士という英国の伝説物語を実に生き生きと話してくれる先生がいました。そのために、私はすっかりその話のとりこになり、自分がその騎士たちのひとりになったようなつもりでいました。

ある晩、私は自分が白い騎士になり、白馬にまたがって緑に囲まれた英国の田舎をかけまわっている夢を見ました。すると、何の前ぶれもなく突然、黒い武具を身にまとった黒い馬に乗ったひとりの騎士が、森のほづれに姿を現わしたのです。私たちはお互いに注意深く相手の様子をうかがい、やりをおろすと馬を全速力で駆りながら向かっていきました。やりはお互いを打ち、ふたりとも馬から放り出されてしまいました。

こうなっては剣を抜いての一騎討ちにな

ることを悟って、私は急いで立ちあがりました。敵がきらりと光る長い剣を振りかざして襲ってくるのを見て、私は恐れをなしました。本能的に私は手を腰にやり、さやから剣を抜きました。私の夢が悪夢となったのはこのときです。というのは、武器として私が手にしたものはあの長いきらりと光る剣ではなく、小さな役に立ちそうもない短刀だったのです。私は助けを求めて叫びながら、恐ろしさのあまり汗びっしょりになって目をさました。

この恐ろしい体験をして以来、私は幾度となく聖徒たちの、特に若い末日聖徒の奉仕の能力について考えさせられてきました。神が私たちに奉仕の召しをお与えになるとき、あなたはさやの中にいてすぐに抜かれる状態にあるのでしょうか。主が悪の力に対



ベテロに敵対する
人々の熱も彼を焼
き尽くすことはで
きませんでした。
しかしその熱は、
けがれたものと欠
点を焼き尽くした
のです。

主が悪の力に対抗する武器としてあなたを抜かれるとき、主の手にあるものは光輝く長い剣でしようか。

抗する武器としてあなたを抜かれるとき、主の手にあるものは光輝く長い剣でしょう。それとも役に立たない短刀でしょう。

与えられた機会

私はかつて、なぜ神は人類の救いをご自分の手中において、確実に救いを保証するようになさらないのだろうかと考えたことがあります。なぜなら神は全能であり、すべての男性、女性が教会に加わるという確信をもってご自分の声を地の表にとどろかせ、メッセージをふれ回ろうと思えばそれも可能だからです。また主は必要な神殿をすべて建て、必要なすべての糸図探求を行ない、他のあらゆることをご自分ひとりで完全に、しかも少しの無駄もなく行なうことができるのです。確かに神はそれらをか弱い人間の力や援助なしに、ひとこと命令するだけですべてなし遂げることができるのです。

しかし、イエス・キリストに対する私の理解が深まるにつれ、主がそれを皆ご自分でなされるというのは愚かなことであるとわかってきました。つまり天父がすべてをご自分の手中におさめ、伝道や神殿の仕事、その他神権によるすべての業をなされると

したら、(1)天父はこの世の創造に先立ってルシフェルが提案したと同様の方法で私の自由意志を侵すことになるでしょう。

(モーセ4：1-3参照) また、忍耐力がなく、何事も完璧になされないと気のすまない父親が、息子を押しつけてすべて自分の思い通りにやることにより本人の成長の機会を奪ってしまうように、(2)私たちの霊的な経験を奪い去ってしまうことになるのです。このようなことから、また福音をもっとよく理解することによって、私はひとつの結論に到達しました。全能の愛ある御父は、子供たちが成長し、学び、御父のようになれるよう、ご自分のみ業に私たちを加えさせてくださっているということです。

反対の力

世の初めから、天父はご自分の子供たちを通して聖なる目的を成就してこられました。贖いも御父の独り子を通してもたらされました。もうひとりの息子アダムは、全人類の父となりました。モーセはイスラエルの民を束縛から解放しました。また近代においてはジョセフが回復の予言者となりました。これらの人々は皆、神のみ手にある代理人あるいは器となって神に仕え、「人に不死不滅と永遠の生命をもたらす」(モーセ1：39)という神の目的を遂行する力となったのです。彼らはいずれも聖められ、その過程にあっては御父の属性を身につけるようになりました。

神の他の息子たちは別の声つまり反対の声に聞き従い、あの追放されたサタンの手先となりました。これは「人を欺きだまし、……すべての者を欲するままに虜となす」

(モーセ4：4)というルシフェルの約束の成就でした。サタンはみずから戦って、光よりも暗やみを好んだ人々に自分の規則をゆきわたらせると警告していたからです。

サタンはカインの手を借りて殺人を犯し、(モーセ5：17-35参照)、コラホルの声を借りて反キリストの教義を説きました。(アルマ30：6-21参照) またシェレムの博学さと言葉の巧みさを悪用して、ニーファイ人の間に疑いの種をまかせました。(ヤコブ7：1-20参照) カイン、コラホル、シェレムのいずれの場合もサタンに屈し、不義の手先となってしまいました。しかし最後に、彼らは皆誘惑者サタンに見捨てられ、地獄に落とされるままにされたのです。(アルマ30：60参照)

自分自身を神に捧げる

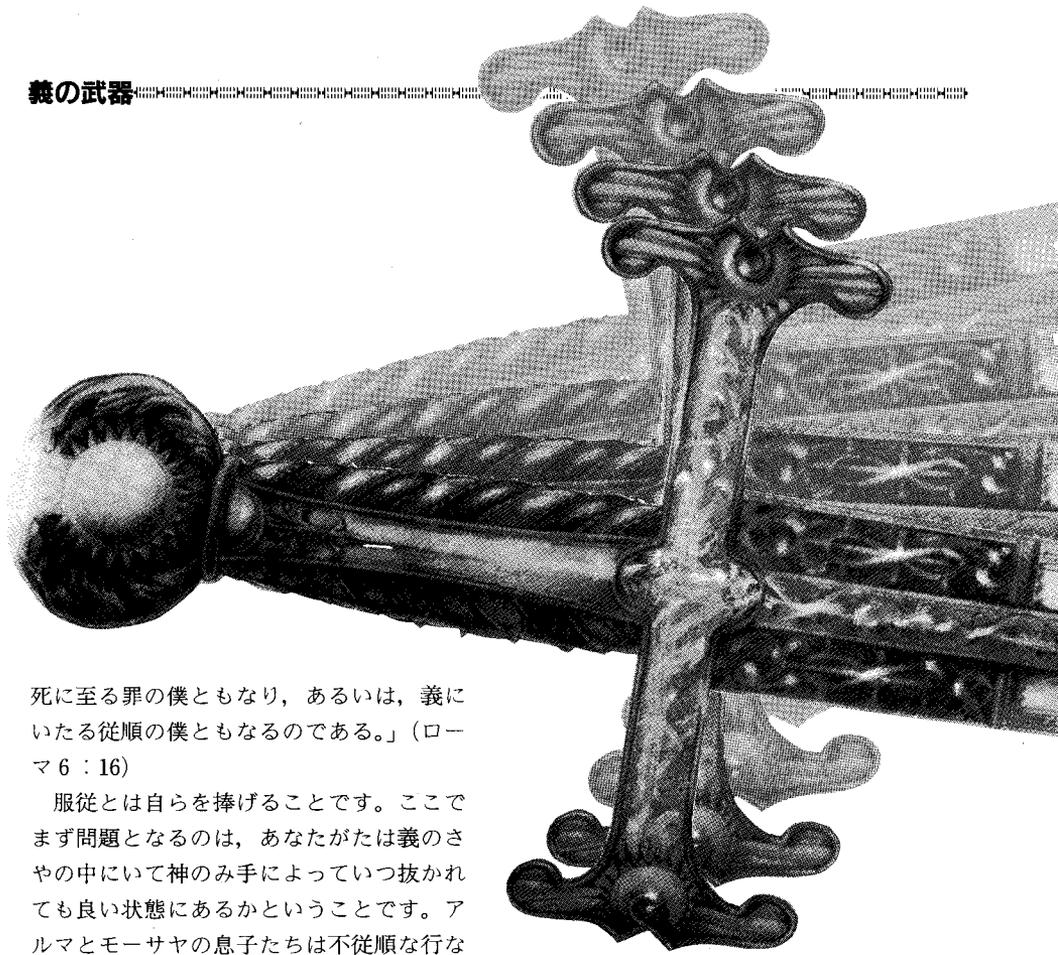
使徒パウロは、人の心にある生と死の葛藤をはっきりと理解していました。彼は救い主と聖徒、ルシフェルとその軍勢の両者を改宗へと導くプログラムを知っていました。そこで彼はローマ人に次のような忠告を与えたのです。

「また、あなたがたの肢体を不義の武器

として罪にささげてはならない。むしろ、死人の中から生かされた者として、自分自身を神にささげ、自分の肢体を義の武器として神にささげるがよい。」(ローマ6：13)

さらにこうつけ加えています。「あなたがたは知らないのか。あなたがた自身が、だれかの僕になって服従するのなら、あなたがたは自分の服従するその者の僕であって、





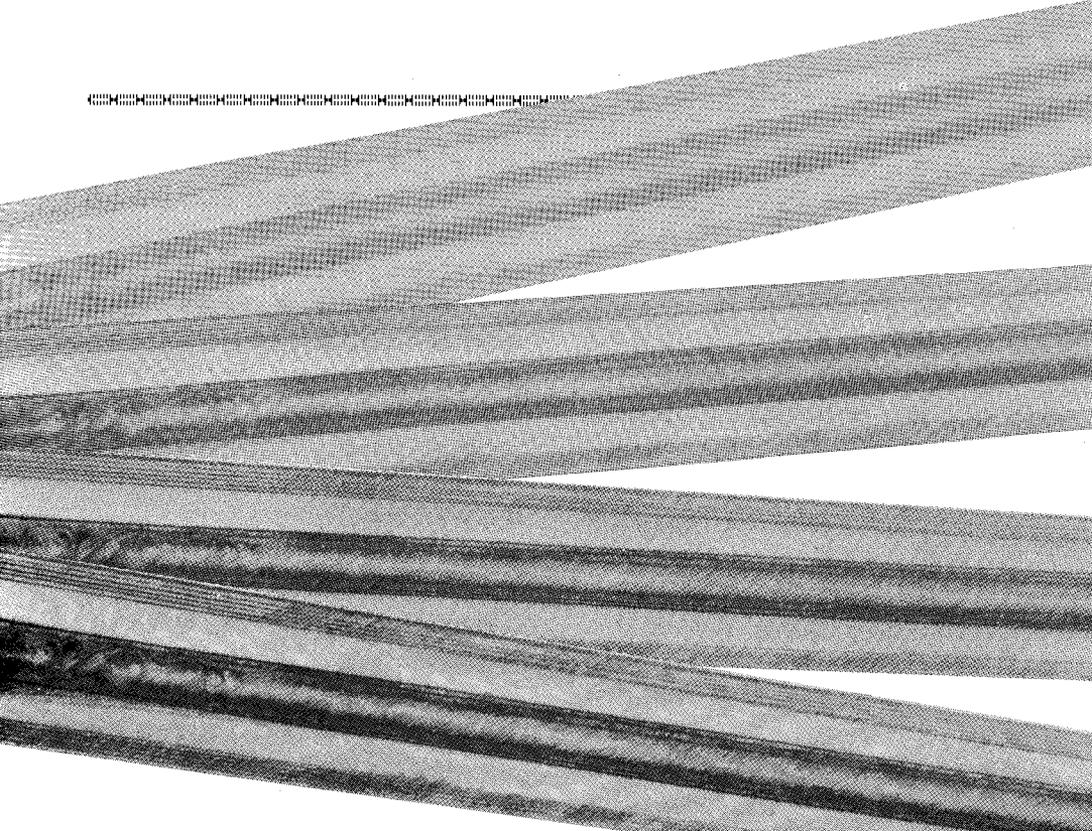
死に至る罪の僕ともなり、あるいは、義にいたる従順の僕ともなるのである。」(ローマ6:16)

服従とは自らを捧げることです。ここでまず問題となるのは、あなたがたは義のさやの中において神のみ手によっていつ抜かれても良い状態にあるかということです。アルマとモーサヤの息子たちは不従順な行ないによって、自分自身を悪のさやに取めてしまいました。そして悪の手が彼らをそのさやから抜いて、彼らを神の教会の妨害者としたのです。サタンに支配されたこの時期を、アルマはのちに「苦汁を飲まされ」「罪の縄目にしばられ」「底なしの暗い穴の中」(モーサヤ27:29)にいるようなものと述べています。

奇跡的な改宗をしたあと、アルマとその友人たちはさやを替えました。彼らは自分たちの罪を告白し、害を与えた人々に償いをし、人々に平安をもたらしました。モル

モン経には次のように記されています。「かれらは神の御手に使われて多くの人に真理とかれらの贖い主の事を知らせたのである。」(モーサヤ27:36)

私たちがサタンのさやに取まるのは、ほんのちょっとした一見何の害悪もないような罪がきっかけとなるのです。たとえば、1本のタバコ、いかがわしい考え、少しモラルを欠いた話、一杯のお酒、ちょっとしたうそ、たった一度見た性を描写した映画などがそれです。しかしそのような罪が徐々に増えていき、気がついたときには、サ



タンの方向に進んでしまっているのです。
そして罪を犯す度にその人の剣の柄はルシ
フェルの手にぴったりと合うように形作ら
れていくのです。

それとは対照的に、正しい信念に導かれ
た信仰や悔い改め、善行は、人を神の革ひも
でしっかりくくられたさやへと導いてくれ
ます。

聖典を愛し、教会に出席し、奉仕プログ
ラムに熱心に参加し、日々正直な祈りを捧
げ、両親を敬う若者たちは、いつでも義の
働きのために出ていける人々です。このよ
うないつでも役に立てる準備のできた状態
は、神の武具である剣の柄と神のみ手が徳
によってひとつになるときに生まれるもの
です。

輝く剣が役に立たない短刀か

次に問題となるのは、主が戦うためにあ
なたをさやから出すとき、主が手にするの
は長い光輝く剣かということです。もし
私が騎士で、戦いに備えているとしたら、
自分の商売道具を慎重に選ぶでしょう。そ
して道具のリストの一番目に、丈夫で先の
鋭いきらりと光る剣をあげるでしょう。そ
れも少しの刃こぼれもなく鋭くみがきあげ
られた剣、私の手にぴったりと合う、手の
延長のような剣です。私はあまり信用のお
けない役立たずのちっぽけな武器のために
負けたくありません。それに比べて長い光

輝く剣は光と力を反映し、それを使う人の心に自信を起こさせ、敵の心に恐れを抱かせるのです。

強く、鋭く、完全な剣

初期の時代のエルサレムの人々にとって、大祭司の中庭で3度キリストを否定したペテロは、役に立たないつまらない武器のように見えたに違いありません。(マタイ26：69-75参照)しかし改宗したペテロは、五旬節の日にユダヤ人の前に立ち、自らを神のみ手に置いて光輝く剣の力と確信をもって証をなし、3千人もの人々の心をとらえたのです。(使徒2章参照)

ペテロのこのような勇敢さは何の努力もなしにひとりてに身についたものではありません。ペテロは試練や誘惑その他「精練の火」と言われるようなあらゆる事柄に試されてきたのです。しかし彼に敵対する人々の熱も彼を焼き尽くすことはできませんでした。その熱はけがれたものと欠点を焼き尽くし、精練された純粋な性質だけを残してくれたのです。彼はみがかれた強い義の剣となって苦悩の炉の中から出てきました。その鋼はがねのように強い性格が彼に最後まで使命を果たさせたのです。

五旬節ののちのペテロは、よみがえられたキリストを証する鋭い心の持ち主となりました。聖典には彼の言葉が、彼を殺そうとした人々の「胸を痛めた」ときのことが記されています。(使徒5：33参照)疑いもなく、そのような心の鋭さは熱心な勉強と断食、祈りによってもたらされたものです。

私たちは、奇跡や啓示は主の清い器を通して与えられると教えられてきました。(III

ニーフай8：1参照) ペテロはその心の清さのゆえに、天使の手により牢獄から解放されました。またその清さのゆえに彼は病人をいやし、ドルカスを死からよみがえらせることができました。(使徒9：36-43参照)さらには、異邦人に福音を広めることとなった示現をも見ることができました。

剣が人を救えるかどうかは、その剣の強さ、鋭さ、純粋さ、そしてその剣を握る手に関係があります。私たち人間にも同じことが言えるのではないのでしょうか。

祈り

私は、自分自身を純粋に清く保ち、専任宣教師として伝道に出、神殿結婚をする備えをしている若者のことを聞くと、胸が躍ります。彼らの「義にいたる従順さ」はすべての人々にとって靈感とも言えるものです。確かにこれら勇気のある人々は、「彼らのつき従う事を欲する者」から、父の持てるすべてのものを報いとして受けるのです。(教義と聖約29：45；84：38参照)

私は教会の若者たちに、真理に対して単に傍観するだけでなく、実際に行なう人となっていただきたいと思います。また常に自らを神の方に向け、神のさやに収まり、抜かれていつでも行動に移れるように願っています。それ以上に、あなた方が義の光輝く剣となるために、性格に強さを、心に鋭さを、そして清さを求めるよう常に願っています。そうすることによって、神が暗黒の力に対抗するためにあなた方を引き抜くとき、そこには少しの戸惑いも失望もなく、悪夢のようなことは何ひとつ起こらないのです。



十二使徒定員会会員
マービン・J・アシュトン

私 たちは将来について考えてみた場合、一見、難題に見えて実は素晴らしい機会になり得るものがいくつかあります。中でも、真理を知り、その真理に従って生きる必要があることを言葉と行ないの両方で示すことは、その最たるものと言えます。聖典にはこのように記されています。「もしわたしの言葉のうちにとどまっておるなら、あなたがたは、ほんとうにわたし

の弟子なのである。また真理を知るであろう。そして真理は、あなたがたに自由を得させるであろう。」(ヨハネ8：31-32)

この聖句は当時と同様、今日の私たちにもびったりあてはまります。この目標に到達するためには、まず私たち自身が正直な生活をし、それから人々に正直になることを教えなければなりません。私は、信仰簡条第13条が「われらは、正直……なるべき

こと……を信ず」という言葉で始まっているところに意味があると思います。

私はこれまで、ハイラム・スミスに対する愛の理由について述べた救い主のすばらしいメッセージを幾度となく読み、深く考えてきました。「また、われ誠に汝に告ぐ、わが僕ハイラム・スミスは幸福なるかな。主なるわれは、彼の心実直なる故に彼を愛す。」さらにこう付け加えられています。「また彼はわれの前に義しきことを愛する故にわれ彼を愛す。」(教義と聖約124:15)

私たち一人一人が、救い主イエス・キリストにそのように言うていただくには、何をしなければならぬのでしょうか。救い主の前に義しきことを教え、それを分かち合うにはどうすればよいのでしょうか。私は、完全に正直になることを教えることにより、それが可能になると申し上げたいと思います。私の言いたいことをもっとよくわかってもらうために、少し分けて話してみましよう。



まず第1に、私たちは自分自身の生活を正直なものにしなければなりません。自分自身に対して完全に正直になろうと決心すること、すなわち真の高潔さを身につける決心をすることほどすばらしいことはない

でしょう。悪びれた態度でふるまうことをやめ、自分自身に心からの誇りを持ってください。自尊心を高め、態度や人柄を良くし、特にあなたの行動面のすべてにおいて正直さを育ててください。あなたは、どれだけ多くの人々に見られ、手本とされているか知らないかもしれませんが。しかし行ないによって教える誠実な人の模範にすべての人が従えるよう、私たちはそれぞれの生活にあって常に正直でなければなりません。人々はあなたの誇りや忍耐力に期待し、あなたに正直の原則を応用してもらいたいと思っているのです。また時にはひそかに見守りながら、あなたがそれを無視しないようにと願っているのです。そして、今度は自分たちが積極的に人々の模範となって影響を与えられるよう、彼らはあなた自身にまたあなたの模範に頼っているのです。そのためにも自分自身に対して正直であってください。

人々に私たちの態度や行ないを見てもらい、自分の示す模範によって人々の心を高揚させ、人々を導いていけるとしたらどんなにすばらしいでしょう。私はかつて、ある聖餐会に出席し、話をする機会がありました。そのときのことは決して忘れることができません。その会の司会者だった監督会の人々が、私をその晩の話者として紹介し、それから異例のやや長たらしい紹介をしました。

「兄弟姉妹、私はこれからアシュトン長老と自分のことについて話そうと思いますが、アシュトン長老はそのことを聞かれたらきっとがっかりなさるでしょう。というの

は、私は長老がかつてある受刑者の人々に、次のように話されているのをうかがったことがあるからです。『皆さんがこの刑務所を出て普通の生活に戻ったら、前科者であることを弁解したり、自慢したりしないでください。過去のことは考えず、そこから新しい人生が始まると思って歩いてください』と。皆さんの多くはご存じないと思いますが、実は私はユタ州立刑務所を出た前科者なのです。6年ほど前のことですが、私がアシュトン長老にお目にかかったとき、長老は社会奉仕事業部のもとで行なわれて

いた受刑者のプログラムの責任を受けておられました。それから数週間して長老と親しくなった私は、自分が長距離走者であったことを長老に話し、年中行事である7月24日のソルトレーク・シティーマラソン大会に出席するチャンスがないものかどうか尋ねました。アシュトン長老は私を励まし、私がある日一日出所してそのレースに出られるように所長に話してみようと言ってくれました。それからしばらくして、所長はアシュトン長老が私について責任をとってくれるならという条件で承認してくれたこ



ました。私はある日、刑務所内の庭で何人かの受刑者と一緒について、ひとりの男性の胸に「生まれつきの前科者」といういれずみがしてあるのを見つけました。彼はそれを証明するのにやっきになっている様子でした。ところが、ユタ州立刑務所内で更生不可能の部類に入るのはたったひとりであると所長が言うのです。私は意外に思っ、所長にその人のことについて尋ねてみました。その受刑者は毎日、23時間40分を独房で過ごし、他のだれとも接触することのできない人でした。彼は精神異常でも何でもなく、ただがんこ者であるというだけでした。「彼には自由を与えてあげられないのです」と所長が話してくれました。「彼の食事は鉄格子越しに独房に差し入れられます。その独房にはトイレとベッドがついており、彼はシャワーを浴びに連れ出される20分間以外はずっとそこで過ごさなければならないんです。前に他の受刑者と同室させたんですが、ひとりをナイフで刺してしまいましたね。また自由が与えられれば同じことをしかねませんからね。」

彼には個人としての誇りも善行も忍耐力も何もないのです。彼が個人の人生で達成しようとしている唯一のものは、ナンバーワンになること、それも「可能性のない男」としてのナンバーワンになることなのです。

私たちもこの話から教訓を得なければなりません。誇りや善行、忍耐という非常に大切な徳の面でナンバーワンになれるよう、すなわち自分自身に対し、人々に対してまったく正直になれるよう生活を築いていきたいものです。



第2に、交わるすべての人々に対して正直な心を育み、それを実践していかねばならないということです。友人関係や接するすべての人々との間で、表面的にではなく、言葉と行ないのすべての面で正直でなければなりません。私たちが自分の名誉にかけて約束をする場合はそこに私たちのすべての良さが表われるのです。

教会の偉大な指導者カール・G・メーザー（ブリガム・ヤングアカデミーの初代学長）は、私たちは皆いろいろな折に、個人的な利益と正しいとわかっている事柄のどちらかを選択する必要に迫られることを強く感じていたようです。善を選ぶときに、私たちは自分自身に対して、また人々に対して正直になります。彼はかつて「名誉をかけた約束」とはどういうことかを尋ねられたことがありました。それに対して彼はこう答えています。「私をずっと遠くまで続く、非常に高くぶ厚い刑務所のへいの中に置いてごらんさい。私にもどうにかすればそこから逃げ出すことはできるはずですが、しかし私を床の上に立たせ、そのまわりにチョークで線を書き、私に名誉をかけてその線を越えないと約束させてごらんさい。私はその線を越えるでしょうか。いいえ、

決して越えませんが、それよりも死を選ぶでしょう。」

この教会を代表する私たちは、このことに特に注意を払わなければなりません。私たちはいかなる人をも欺いてはなりません。自分にあるまじき行為はしないことです。私たちが自分自身に誇りを持ち自分自身に正直であれば、接する人々には自然に正直になれるはずで



第3に、仕事の面で正直になるということです。「一日分の給料に見合う一日分の正直な働き」、こう昔から言われてきていますが、これは決して古びた時代遅れの言葉ではありません。私は自分の仕事が好きなので早く仕事場に行きたくなります。私たちは皆そのような気持ちを持つべきではないでしょうか。仕事に対する良くない態度は、仕事の内容に影響します。たとえば、自分の仕事に対してどうせ一時的なものという見方をしていると、いろいろな折にそれが表に出てきます。私たちは、夏の間だけ、学費をかせぐ間だけ、あるいはもっといい仕事が見つかるまでのほんの短い間だけの仕事なのだとか考えるかもしれません。あるいはまた借金を返すため、伝道中の息子を援助するために働いているのかもしれない。

時的な仕事という考え方になってしまう理由はたくさんありますし、理由それ自体は悪くはないのです。不正直になる危険性を含んでいるのは、その結果として表われる態度なのです。「ここにずっといるわけじゃないんだから、このお客にはそんなに誠実に、ていねいに接することはない」といった態度がそれです。またこう言う人もいます。「だれにもわからないんだからこの仕事が完成しなくても大丈夫。一生ここで働くわけじゃないんだから……。」これらは怠け者の考え方です。このような考え方を持っていると、その人の将来の成功に影響をおよぼすような危険な生き方が自然に身についてしまいます。

教義と聖約51章16-17節に、エドワード・パートリッチ監督の要請に対して予言者ジョセフ・スミスが受けた啓示が記されています。当時聖徒たちは、転々としながらも、西部への移住の途中にあるこの一時期に、テントを張るよりも家を建てるべきかどうか迷っていました。この疑問に対して、主は非常に明確に答えておられます。

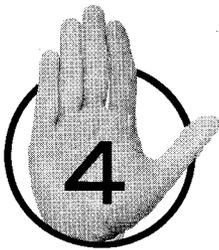
「^{しむ}而して^{しば}暫しの間、われこの地を彼らの^{ため}為に^な聖くし、われ主が彼らのため他に所を備えて、ここより外に行くを命ずるまでこれを彼らに与うべし。されど、その日もその時も彼らには示されず。その故に彼らはこの土地の上に数年間の働きをなせ。さらばその働きは彼らの^{ため}利益にならん。」

私たちはどんな立場にあっても、正直かつ高潔で、私たちの名前を汚すことをすべきではありません。主が提案しておられるように、常に何年間もいるようなつもりで

働くべきです。結局は私たちのなす働きによってどのような人になるかが決まるのです。仕事場であって、私たちは自分自身の模範によって正直であることの大切さを教えることができます。仕事場で熱心に働かなかったり、時間を浪費したりしている人々にとって毎日は長く感じられるでしょうが、正直な心で仕事にあたり達成する人々には満足感があるものです。

ある依頼されていた従業員に、会社から大金を盗む手伝いをしてくれるよう話をもちかけた不正直者の話があります。その従業員はずっと断わり続けてきたのですが、2億円という金額を提示されてついに首をたてに振ってしまいました。

こうしてふたりでうまく大金を盗んだあと、犯人はその従業員に報酬として2万円を差し出しました。その従業員は怒りました。怒りに満ちた声で従業員はこう言いました。「私を何だと思っているんだ！」この犯罪を計画した男は軽べつきった声でこう言いました。「あんたがどんな人かはもうわかったよ。罪人には一体いくら払ったらいいのかね。」



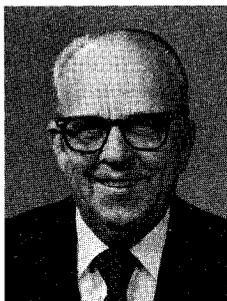
4番目に、私たちは何よりもまず神に対

して正直でなければなりません。私たちは神が生きておられ、私たちを助けてくださることをよく理解しなければなりません。私は何年にもわたり、いろいろな問題に対処するのに必要な答えを神から得るように教わってきました。私たちがみたまに波長を合わせ、神を呼び求めるならば、神は私たちのなすすべての面で助けを与えてくださるのです。家族のことやいろいろな人間関係のことで、私たちは皆神を交えて将来の計画を立てる必要があります。神を私たちの先輩のパートナーとするときに、私たちの生活はすばらしい成功に満ちたものとなるでしょう。

少年ジョセフ・スミスは、神に対して正直になるという偉大な模範を示してくれました。1820年のある春の朝、彼は天父に対して自分の最も正直な気持ちを打ち明けたのです。その結果、彼は「こはわが愛子なり、彼に聞け」という答えを受け、この神権時代に完全な福音を回復することとなったのです。わずか14歳の一少年の完璧に近いまでの正直さは、近代の他のいかなる出来事にもまして今日の私たちに大きな影響を与えています。

正直さは私たちの生き方そのものです。それは公に人々に発表するものでも宣言するものでもありません。人々と接するとき、あるいは仕事場であって、また神と共に一歩一歩身につけていく徳なのです。正直であるということは、他の何ものでもない、私たちが果たさなければならない義務なのです。

小さなお友だちへ

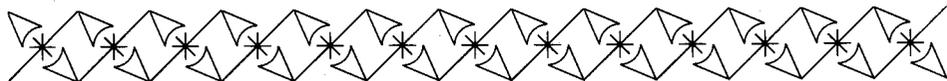


七十人第一定員会会員のフランクリン・D・リチャーズ長ろう
に、ジャネット・ピーターソン姉妹がインタビューしました。

リチャーズ長ろうのフランクリン・Dという名前は、おじいさんの名前と同じです。おじいさんは、すばらしいせんきょううして、50年ものあいだ、使徒としてはたらきました。お田さんのレティシア・ペアリーは、5さいのとき家ぞくといっしょに大へい原をこえて、ユタへやってきました。レティシア・ペアリーの家ぞくは、ヒーバー・J・グラント大かん長のお父さんの、ジエデダイア・M・グラントからふくいんを聞いたのです。リチャーズ長ろうはずっと、

おじいさんやジエデダイア・M・グラントのでんどうのことを、すばらしいなと思っていました。

フランクリンは、8さいのときリユーマチねつにかかりました。おいしゃさんは、18さいくらいまでしか生きられないだろうといいました。しかしフランクリンは、しゆくふくしのしゆくふくの中で「長生きする」というやくそくをうけました。「わたしは、いつもおいしゃさんよりも、しゆくふくしをしんじていました。」リチャーズ長ろうは、今82さいです。



やはり、しゆくふくしのしゆくふくの方が、^{ほう}ただ、^{ただ}正しかったのです。

毎年夏になると、お父さんはフランクリンに、お兄さんののうじょうへ行ってはたらくようにいいました。そのほかにも、お父さんは、家の用をいろいろといいつけました。フランクリンが、せきにんかんの強い子になるようにと、お父さんはニワトリを50ぱかいました。ニワトリにえさと水をやり、とりごやをそうじし、タマゴをあつめるのが、フランクリンのしごとでした。家ぞくが食べる分よりもたくさんタマゴがあつまったときは、それを売って、そのお金をもらってもよいことになっていました。「わたしは、父や田にかんしゃしています。父や田は、はたらくことによろこび、もらったお金やとれたものよりたくさんはつかわないこと、それにじゅう分の一をはらうことの大切さを教えてくれました。」

むかしは、じゅう分の一をかんとのそうこにもっていくことになっていました。ときには、タマゴや、

むぎ 麦や、のうじょうでとれたものをもっていくこともありました。1908年、たったの8さいのときに、フランクリンは75ドルもかせいで、7ドル50セントのじゅう分の一をおさめまし

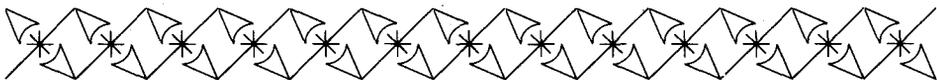


た。リチャーズ長^{ちよう}ろうはまだそのシートをもっています。そのころの75ドルは、大金^{たいきん}でした。フランクリンは、とてもよくはたらいたのです。フランクリンの通^{かよ}ったハイスクールは、ウィーバー・アカデミーという、キヤウカイ^{きやうかい}がっこう教会の学校^{がっこう}でした。ウィーバー・アカデミーの校^{こう}長^{ちよう}先生^{せんせい}は、のちに大^{だい}かん長^{ちよう}になったデビッド・O・マッケイ^{まけい}でした。

ハイスクールをそつぎようしたあと、フランクリンはメリーランドしゅうアナポリスの海^{かい}ぐん学校^{がっこう}に行くことができるといわれました。フランクリンは、海^{かい}ぐん学校^{がっこう}に行こうか、せんきようしになろうかと、まよいました。「わたしは、しらないうちに、神^{かみ}さまがオリバー・カウドリにいわれたことばに、したがっていました。『心^{こころ}の中でよく考^{かんが}えてそれがただ正しいことならば、わたしにねがいなさい。もしそれが正しいことならば、わたしはあなたの心^{こころ}をあたたかくしましょう。そうすれば、あなたはそれがただ正しいことがわかるでしょ

う。』わたしは、でんどうのことや、おじいさんのことを考^{かんが}えました。そして、こう思^{おも}いました。『わたしは、アナポリスに行きたいのだろうか。それとも行きたくないのだろうか。』わたしはよく考^{かんが}えて、何^{なん}人^{にん}かの人^{ひと}とそうだんして、とうとうでんどうに行くことにしました。それからわたしはおいのりをして、わたしの気^きもちを神^{かみ}さまにお話^{はなし}しました。すると、それがただ正しいことを、せいれいがあかしてくれました。

リチャーズ長^{ちよう}ろうは、お父^{とう}さん、お田^{かあ}さん、家^かぞく、教会^{きやうかい}のしどうしやから学^{まな}んだモットーにしたがっています。リチャーズ長^{ちよう}ろうのじむしよには、「何^{なに}ごともしっかりやりなさい」というモットーをほった、うつくしい木^きのいたがかかっています。「子どものころ、わたしはステーキぶ長^{ちよう}から、たくさん^{まな}のことを学^{まな}びました。わたしのステーキぶ長^{ちよう}は、教会^{きやうかい}の召^めしをうけたら、それをしななければならない、としんじていました。わたしは、8さいから18さいま

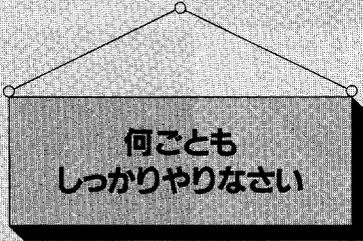
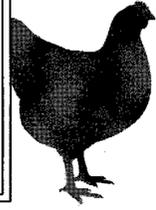


No.107

かんとくのそうこ

1908年12月31日

だい6オグアンステーキぶ
フランクリン・D・リチャーズ
じゅうぶんのー
7ドル50セント



いつもしどうしゃに
したがいなさい

ほうしのきかいを
ことわらない

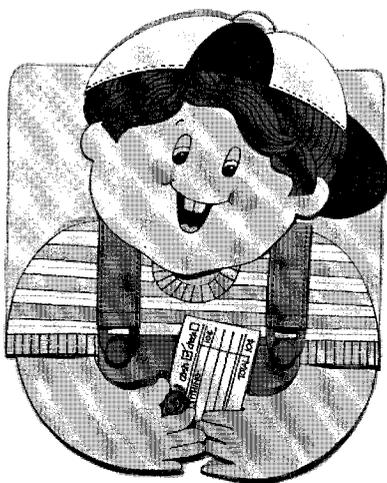
で、そのステーキぶ^{ちよう}長^{てほん}をお手本に
していました。

お父^{とう}さんとお母^{かあ}さんは、ことばと
行^{おこ}ないによって、ほかのモットーも
おし
教えてくれました。それは、「いつ
も、^{きようかい}教会のしどうしゃにしたがいな
さい。」「ほうしのきかいをことわっ
てはいけない」というモットーでし
た。前^{まえ}の方^{ほう}のモットーについて、リ
チャーズ^{ちよう}長^{ちよう}ろうは「よげんしゃだけ
ではなく、かんとくや、しぶ^{ちよう}長^{ちよう}にも
したがわなければならない」とせつ

めいしています。

また2番^{ばんめ}目のモットーについては、
こうおっしゃっています。「わたし
は、ほうしのきかいをことわりたい
とおもったことはありません。ちい
子どもたちが立^たっておいのりをした
り、プライマリー^{うた}で歌^{うた}ったりするの
を^み見ると、心^{こころ}がおどります。そうし
て子どもたちは、^{きようかい}教会のしどうしゃ
にしたがっているのです。子どもた
ちは、召^めしをことわったりはしませ
ん。」





イエスさまは、どうやって お^{かね}金をうけとるの

お話：ローウェル・J・フェッツ

にわそうじは、とってもたいへんで、おひるまでかかってしまいました。でも、おわったときに、パパがやくそくのお^{かね}金をくれました。

ぼくは、アンズの木の下^{もと}にすわって、ピカピカのお^{ひゃくえん}玉^{たま}を見ていました。お^{ひゃくえん}玉^{たま}は、たいようのひかりをあてると、キラキラひかりました。ぼくは、おもいました。「ぼくのお^{ひゃくえん}玉^{たま}だ。なんでもすきなものがかえる

んだ。」そのとき、じゅうぶんの^{いち}の^{いち}のことを、おもいだしました。はずかしいのですけれど、ぼくはじゅうぶんの^{いち}をはらいたくありませんでした。「ぼくがかせいだんだから、これはみんなぼくのお^{かね}金だ」と、ぼくはじぶん^{いち}にいいきかせました。

じゅうぶんの^{いち}をはらってしまつたら、90^{えん}しかのこりません。それに、イエスさまは、10^{えん}くらいなく



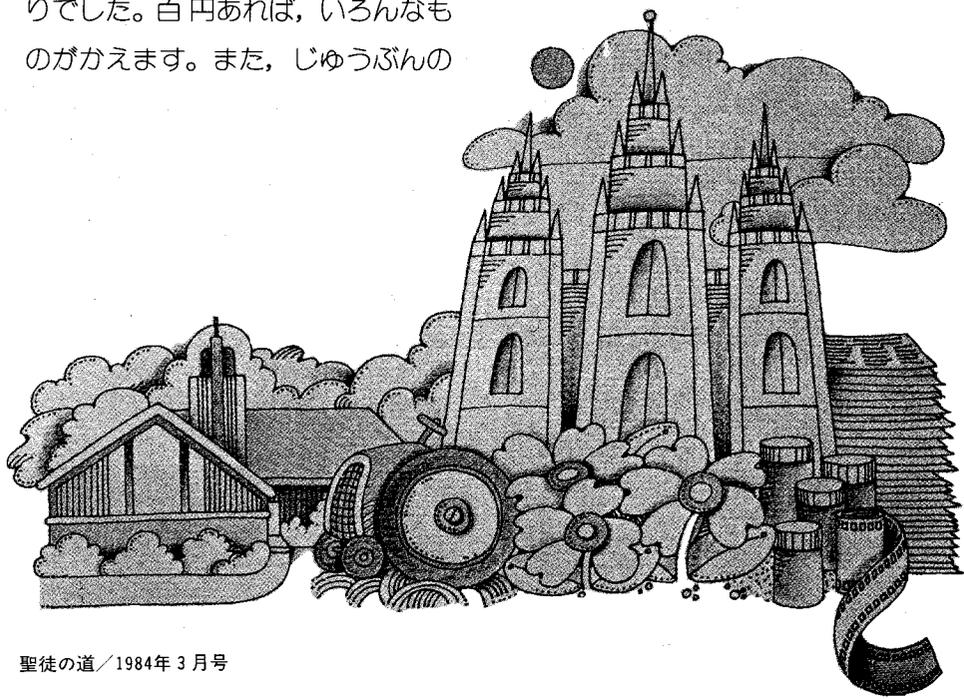
たって、こまらないでしょう。このせいかいはイエスさまのものだし、イエスさまは、なんでもほしいものを手に入れることができるのですから。そうおもうと、気がらくになりました。

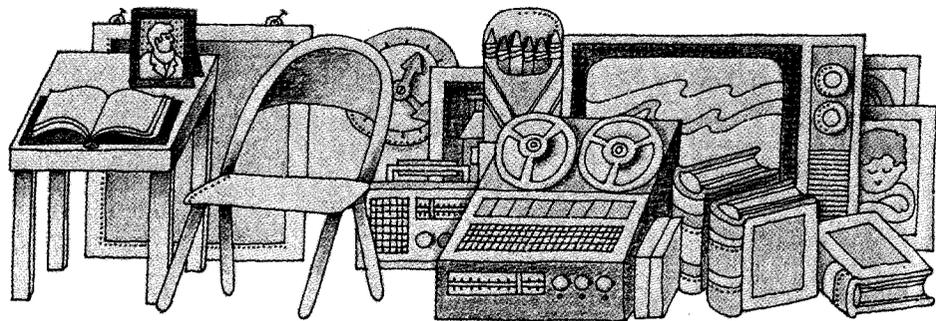
「そうだ、そうだ」と、ぼくは草の上^{うえ}にねころびました。そして、ゆれる木のはのすきまからさしこむ、白のひかりを^みていました。あたたかくて、よい気もちでした。

でも、まだ百円玉^{ひやくえんだま}のことが気がかり^きでした。百円^{ひやくえん}あれば、いろんなものがかえます。また、じゅうぶんの

一^{いち}のことが、あたまにうかんできました。ほんとうは、90円^{えん}だけがぼくのもので、10円^{えん}はイエスさまのもので、なのです。わかってはいるのですが、でもまだ、はらうのはいやでした。そのとき、ふとこんなかんがえが、うかびました。「イエスさまは、どうやってお金^{かね}をうけとるのだらう。」

ぼくは、それが気になってしかたがありませんでした。そのとき、ふといいことをおもいつきました。じゅうぶんの一^{いち}をはらったら、かんと





くさんを見はっていて、どうやってイエスさまにぼくのじゅうぶんの^{いち}をわたすのか、見てやろうとおもったのです。ぼくは、日よう日のあさがまちきれませんでした。

パパが、じゅうぶんの^{いち}のようしをかくのを、手つだってくれました。ぼくはわるいことをかんがえているので、あんまりよい気もちではありませんでしたが、パパは、ぼくがじゅうぶんの^{いち}をはらうというので、うれしそうでした。とにかく、ぼくはじゅうぶんの^{いち}をはらうのです。

ついに、日よう日のあさがきました。ぼくは、プライマリーがおわったら、かんとくさんがかんとくしつにいるときに、わたそうとおもいました。かんとくさんは、かんとくしつでイエスさまにじゅうぶんの^{いち}をわたすにちがいないとおもったので

す。じゅうぶんの^{いち}をもっていくと、かんとくさんはよろこんで、「かみさまのしゆくふくがありますよ」といいました。

かんとくさんはぼくにおれいをいうと、ぼくのじゅうぶんの^{いち}がはいったふうとうを、ワードぶのしよきさんにわたしました。しよきさんが、ぼくのふうとうをあけたときには、ぼくは「まさか」とおもいました。

「この人^{ひと}が、イエスさまにお金^{かね}をわたすのだろうか」とふしぎにおもったのです。かんとくさんは、ぼくを見ていたらしく、どうかしたのかと、たずねました。

「イエスさまは、どうやってお金^{かね}をうけとるの」とぼくはたずねました。よつぽどおかしなしつもんだったのでしよう。かんとくさんは、わらってこういいました。「イエスさまが、

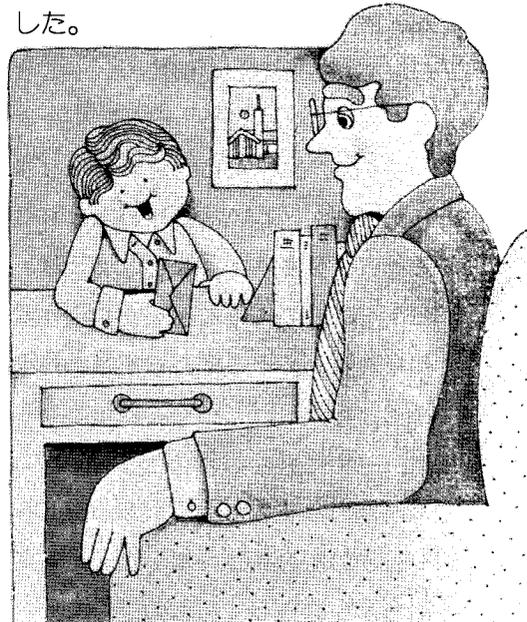


じぶんでお金^{かね}をうけとるわけではな
いんだよ。お金^{かね}はきょうかいのほん
ぶにあつめられて、でんどうや、し
んでんや、けいずのしごとや、いろ
んなことのためにつかわれるんだよ。
それから、このきょうかいのたても
のためにもつかわれているよ。」

かんとくさんは、ぼくの^て手をとつ
て、きょうかいの中^{なか}にあるいていき
ました。そして、ときどき、こくば
んやなんかのところ、たちどまっ
て、「これは、いくらだとおもうかな」
とききました。かんとくさんは、い
すやテーブルが、このきょうかいに
いくつあるか、おしえてくれました。
ひとまわりしたころには、きょうか
いのかつどうのために、たくさんのお
金^{かね}がかかることがよくわかりまし
た。かんとくさんは、きょうかいを
なおしたり、そうじをしたりするの
にもお金^{かね}がかかることを、おしえて
くれました。

かんとくさんは、こういいました。
「じゅうぶんの^{いち}一をはらっていると、
きょうかいや、しんでんのために、

じぶんもお金^{かね}をだしたんだという^き気
もちになって、あんしんできるね。」
かえりみちに、ぼくはおもいました。
「じゅうぶんの^{いち}一って、すばらしい
ものなんだな。」イエスさまが^ま見られ
なくて、ざんねんだったけれど、ぼ
くは、じゅうぶんの^{いち}一をはらって、
きょうかいのしごとをたすけている
のを、ほこらしくおもいました。そ
の^ひ日はもうなんにも、かんがえませ
んでした。あしたは、^{げつ}月よう日です。
ぼくの^て手の中^{なか}には、90円^{えん}がのこりま
した。



よげんしゃヨナ

ニネベの町の人々は、だんだんわるい人々になってきました。神さまは、ニネベの町をほろぼしてしまおうとされましたが、くいあらためのためさいごのチャンスをあげようとお思いになりました。神さまは、よげんしゃのヨナをよんで、おっしやいました。「立って、大きな町ニネベに行きなさい。そして大声をあげていなさい。ニネベの町の人々のわるい行ないが、わたしの前にのぼってきたからです。」

ヨナは、ニネベに行きたくありませんでした。「くいあらためなければほろぼされますよ」などといえば、ニネベの町の人々に何をされるかわかりません。そこで、ヨナは神さまの前から、にげていくことにしました。ヨナは近くのみなとへ行き、ニネベからはずっと遠くにあるタルシシ行きの船を見つけました。そして船ちゃんをはらって船にのりこむと、

船ぞこでぐっすりねむってしまいました。

まもなく、船はみなとを出ました。すると神さまが海の上に強い風をおこされたので、なみがあらあらしくふなべりにうちつけました。「水ぶたちはこわくなり、めいめいに、じぶんがしんじている神さまをよびもとめました。そして船をかるくするために、にもつを海になげすめました。」(ヨナ1：5)でも、ヨナだけはべつでした。船長はヨナをゆりおこして、いいました。「あなたはどうしてねむっているのか。おきて、あなたの神さまをよびもとめなさい。神さまがわたしたちをかえりみて、たすけてくださるかもしれません。」(ヨナ1：6)

水ぶたちはだんだんこわくなってきて、くじをひいてだれのせいであらしがおこったのか知ろうとしました。くじは、ヨナにあたりました。



みんなはヨナに「おまえはだれだ。どこからきたのか」とききました。ヨナは、^{かみ}神さまからにげてきたことを話すと、^{はな}こういいました。「わたしを^{うみ}海になげ入れてください。そうすれば、^{うみ}海はしずまるでしょう。わたしには、よくわかっています。このはげしいあらしがおこったのは、わたしのせいです。」(ヨナ1:12)ヨナは、^{かみ}神さまがおこっておられることを、^し知っていました。

しかし、みんなはヨナを^{ふね}船からほうりだしたくありませんでしたから、もう1ど^{ふね}船をきしへもどそうとしました。でもだめでした。そこでみんな

は、^{かみ}神さまがゆるしてくださるよ
うにといのりながら、ヨナを^{かつぎ}か
つぎあげて、^{うみ}海へなげこみました。すると、^{うみ}海はしずかになりました。

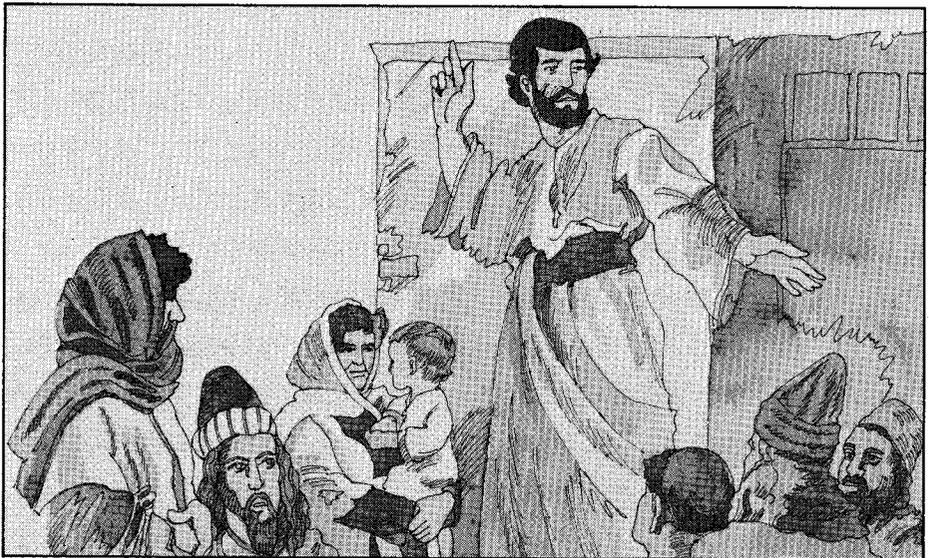
ヨナが、^{なか}なみの中にしずんでいくと、^{かみ}神さまが^{よう}用いしておられた^{おお}大きなさかながやってきて、ヨナをのみこんでしまいました。さかなのおなかの中でヨナは^{じぶん}自分のしたことを^{かんが}考えました。そして、ニネベへ行って、^いふくいんをのべつたえるのをいやがって、にげてしまったことをくやみました。ヨナは、^いくいあらためようと思ひ、^{おも}おいのりをしはじめました。ヨナは^{かみ}神さまに、「よげんしゃとして

つかえます」とやくそくをしたので
す。すると、神さまはさかになにめい
れいをして、ヨナをりくの^{うえ}にはき
ださせました。

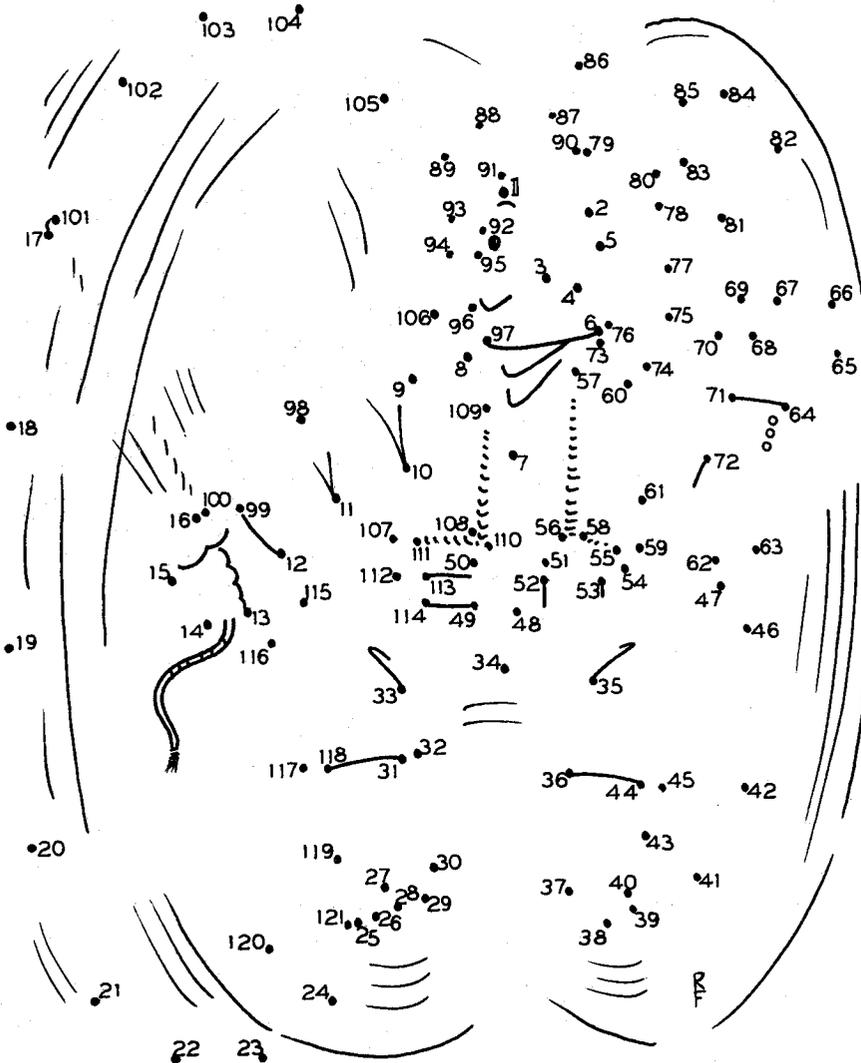
神さまは、ヨナをおよびになりま
した。「立ってあの大きな町ニネベに
行き、わたしのめいじるとおりに、
町の^{まち}人々にいいなさい。」(ヨナ3：
2)

こんどこそ、ヨナはしたがいまし
た。ヨナは、ニネベの^{まち}町に入ると、
つぎのようによげんしはじめました。
「40日^{にち}たったら、ニネベはほろびま
すよ。」(ヨナ3：4)しかし、人々
はヨナには^{なに}何もせず、ヨナのことば

をうけいれました。そして、王さま
は^{くにじゆう}国中におふれを出しました。「人
も、けものも、ウシも、ヒツジも、
みんな^{なに}何もあじわってはならない。
ものを^た食べたり、^{みず}水をのんだりして
はならない。」(ヨナ3：7)すると、
ニネベの^{まち}町の人々は^{ひとびと}つみをゆるして
もらおうとして、一生^{いつしやう}けんめいおい
のりをし、わるいことをしないよう
になりました。神さまは人々のねっ
しん^きなおいのりをお聞きになり、く
いあらためているのをごらんになり
ました。そしてニネベの^{まち}町の人々は
ゆるし、そのいのちをおたすけにな
ったのでした。



おもちゃばこ



末日聖徒 イエス・キリスト教会 ここ10年の歩み

19 83年12月をもって、キンボール大管長在任10周年を迎えた。この10年は、伝道が盛んに行なわれ、限りない愛が示された歴史的な期間であり、大きな変化が現われたときでもあった。

1973年12月30日、当時、十二使徒定員会会長であったスペンサー・W・キンボール長老は、ソルトレイク神殿において末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長に聖任された。時に、78歳。以来10年、教会は、大きな変化と成長を見せている。

*1973年、会員数は3,321,556名であったが、83年末には、5,450,000名に達した。

*ステーキ部数は630から1,430に増えた。

*実際に業務が行なわれている神殿数は15から25となり、さらに16が着工、ないしは着工を待っている状態にある。

*専任宣教師の数は、17,258名から27,000名となり、さらに伝道期間は1年半に縮められた。

*同様に、伝道部の数も108から180になり、改宗者数は1973年の年間79,603名から1983年には年間191,013名に達した。

しかしながら、この数字はここ10年の劇的な発展のほんの一端を示すにすぎない。この10年を振り返るに、1975年には七十人第一定員会が組織され、1976年には教義と聖約にふたつの啓示が加えられ、1978年に



●復活した救い主の壁画の前に立つキンボール大管長。救い主は弟子たちに「あなたがたは行って、すべての国民を……教えよ」（マタイ28：19-20）と命じておられる。キンボール大管長は、救い主のこの命に、うまずたゆまず従ってこられた。

は、ふさわしい生活をしている全男性教会員に神権を授けるという啓示が与えられた。

ゴードン・B・ヒンクレー第二副管長は、教会歴史中のこの時期について、次のように語っている。

「キンボール大管長が管理されたこの10年の間に、教会は発展し、活動の力を増し、全世界の会員たちの間に一致の気運が高まった。

キンボール大管長が力を注がれた伝道の

業は、豊かに実を結んだ。回復された福音をすべての国民、血族、國語の民、そして世の人々に宣べ伝えるという教会の重大な使命について、大管長は明確な言葉ではつきりと宣言された。この点について、大管長の見解はつねに予言的であった。周知のように、人種や皮膚の色を問わず教会がめざましく発展したことは、注目に値するところである。

そのリーダーシップにより、世界中至るところで教会の業が伸展した。聖餐会出席数も増し、その他の数字も教会の発展を示している。また、建築プログラムも著しく拡大され、様々な活動のためのよりよい施設が多数建設された。

キンボール大管長の会員たちに対する愛、そして主の予言者であり教会の大管長であるキンボール大管長に対する会員たちの愛は、会員間に絶大な一致の精神を築く触媒となってきた。隣人愛はキンボール大管長の資質の根本であり、末日聖徒は広く人々に向けられるその愛に感動した。大管長は、兄弟愛の精神と、主の福音の真髄である相互の愛で全会員を包みこんだ。」

また、十二使徒定員会のエズラ・タフト・ベンソン会長は、こう言っている。「キンボール大管長は、義の宣教者、霊の巨人、愛と慈悲に溢れたキリストのような人、全人類に真理を宣べ伝える比類ない宣教師として、必ずや後の世に語りつがれることだろう。キンボール大管長は、まことに神の予言者であり、聖見者であり、啓示を受ける方である。

キンボール大管長は、福音を宣べ伝え、聖徒たちをととのえ、死者を贖うという教会の使命に私たちの目を向けさせただけでなく、みずからその業を指導された。」

●この10年の主要な出来事●

1974年

- 6月23日
中央若い女性会会長、新たに任命さる。
- 8月16-18日
スカンジナビア地域大会、開催さる。
- 10月3日
中央扶助協会会長、新たに任命さる。
- 10月5日
中央初等協会会長、新たに任命さる。
- 11月19日
ワシントン神殿、献堂さる。

1975年

- 2月23日-3月2日
ブラジル(サンパウロ)地域大会、開催さる。
- 3月1日
サンパウロ神殿建設、発表さる。
- 3月7-9日
アルゼンチン(ブエノスアイレス)地域大会、開催さる。
- 6月27日
補助組織大会、廃止さる。
- 7月24日
ソルトレーク・シティーにて教会本部ビル、奉獻さる。
- 8月8-10日
日本(東京)地域大会、開催さる。
- 8月9日
東京神殿建設、発表さる。
- 8月11-12日
フィリピン(マニラ)地域大会、開催さる。
- 8月13-14日
台湾・香港(タイペイ)地域大会、開催さる。
- 8月15-17日
韓国(ソウル)地域大会、開催さる。
- 10月3日
七十人第一定員会、再組織さる。
- 11月15日
シアトル神殿建設、発表さる。

1976年

- 2月15日－3月2日
南太平洋地域大会、開催さる。
- 4月3日
高価なる真珠にふたつの啓示がつけ加えられる。
- 4月3日
メキシコ・シティー神殿建設、発表さる。
- 6月18－22日
英国諸島地域大会、開催さる。
- 7月31日－8月8日
ヨーロッパ地区地域大会、開催さる。
- 10月1日
七十人第一定員会の再組織に伴い、十二使徒補助、同定員会の会員となる。
- 12月1日
総大会は2日間とする、という新方針が出される。4月の総大会は必ずしも4月6日を含まないことも発表された。

1977年

- 2月12日－3月6日
中米地域大会、南米地域大会、開催さる。
- 4月7日
中央若い男性会長会、再組織さる。(中央若い男性会長会は、1974年6月23日に解散されていた)
- 8月24日
伝道開始に備えて、ポーランド奉獻さる。(鉄のカーテンの彼方への、教会大管長の初の訪問)
- 10月2日
サモア神殿建設、発表さる。

1978年

- 2月3日
ジョーダンリバー神殿建設、発表さる。
- 3月14日
ワード部集会、ステーキ部集会の頻度削減さる。
- 3月31日

ステーキ部大会は年2回とする、という新方針が出される。以後、教会幹部の訪問は年1回となり、残りの1回は地区代表が訪問するようになる。

- 4月22日
系図調査に、人名抄出プログラムが採用される。
- 6月9日
ふさわしい生活をしている全男性教会員に神権が与えられる、という啓示が発表される。
- 6月18日
ハワイ地域大会、開催さる。
- 7月12日
中央若い女性会長会、新たに任命さる。
- 9月29日
聖餐会で女性が祈ることが承認される。
- 9月30日
教会幹部に名誉会員制、採用さる。
- 10月23－24日
南アフリカ地域大会、開催さる。
- 10月30日
サンパウロ神殿(ブラジル)、献堂さる。
- 10月26－29日、11月3－5日
南米地域大会、開催さる。

1979年

- 2月18日
ノーヴー・イリノイステーキ部、第1,000番目のステーキ部となる。
- 5月4日
ステーキ部大会の日曜日には聖餐会を行わない、という方針が出される。
- 6月23－24日
合衆国とカナダにおける第1回地域大会、開催さる。
- 11月24－30日、12月1－2日
南太平洋地域大会、開催さる。

1980年

- 3月2日
集会統合化プログラム、開始さる。
- 4月2日



●妻であり伴侶である協力者のカミラ姉妹とキンボール大管長

アトランタ神殿、ジョージア神殿、プエノスアイレス神殿、サモア神殿、オーストラリア神殿、タヒチ神殿、トンガ神殿の建設、発表さる。

4月5日

中央初等協会会長、新たに任命さる。

4月21日

非教会員の神権会への出席が承認される。

9月10日

統一教科過程が採用される。

10月8日

姉妹宣教師および夫婦宣教師の、年齢制限および伝道期間が変更される。

10月18-23日、11月1日

極東地域大会、開催さる。

10月27日

東京神殿、献堂さる。

11月17日

シアトル神殿、献堂さる。

1981年

4月1日

イリノイ州シカゴ、テキサス州ダラス、ドイ

ツ、グアテマラ、南アフリカ、ペルー、フィリピン、韓国、スウェーデンの神殿建設、発表さる。

7月23日

ゴードン・B・ヒンクレー長老、大管長会副管長として召される。

11月16日

ユタ州ジョーダンリバー神殿献堂さる。

1982年

3月18日

伝道役員会、神権役員会、神殿系函役員会、組織さる。

3月31日

ボイン (アイダホ州)、デンバー (コロラド州)、グアヤキル (エクアドル)、タイペイ (台湾) の神殿建設、発表さる。

4月2日

独身長老の伝道期間が短縮される。

10月9日

フライベルク (ドイツ民主主義共和国) の神殿建設、発表さる。

12月2日

N・エルドン・タナー副管長の死去に伴い、大管長会再組織さる。(マリオン・G・ロムニー長老が第一副管長に、ゴードン・B・ヒンクレー長老が第二副管長に聖任さる)

1983年

6月1日

アトランタ(ジョージア州)神殿、献堂さる。

8月4日

アピア (西サモア) 神殿、献堂さる。

8月9日

ヌクアロファ (トンガ) 神殿、献堂さる。

9月15日

サンチャゴ (チリ) 神殿、献堂さる。

10月28日

パペーテ (タヒチ) 神殿、献堂さる。

12月2日

メキシコ・シティー神殿、献堂さる。

マーク・E・
ピーターセン長老
逝去(83歳)

去る1月11日、ソルトレークバレー病院で亡くなった十二使徒定員会会員マーク・E・ピーターセン長老(83歳)の葬儀が、1月16日、ソルトレーク・シティのタバナクルにおいて行なわれた。

死因は長い間患っていた癌の併発症によるものである。ピーターセン長老は治療中、特にここ数カ月は入退院を繰り返していたにもかかわらず、思いやりのある、紳士としての振る舞いを失うことなく、また温かい心からの笑みを絶やすことがなかった。長老は健康を害していたにもかかわらず教会の責任を果たし続け、個人的な研究に専心していた。ピーターセン長老が亡くなったその日には、モルモン経に関するシリーズものの第1作目が出版される予定であった。

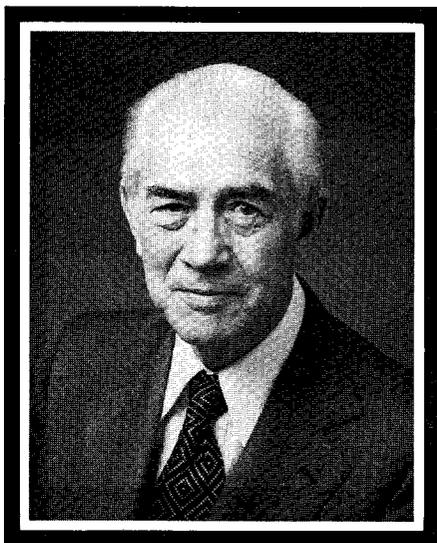
故人の遺族には、ふたりの娘と3人の孫、ふたりのひ孫、そしてひとりの兄弟とふたりの姉妹がいる。

マーク・E・ピーターセン長老は1944年4月以来、十二使徒定員会の一員として働いてきた。

この間ピーターセン長老は世界の至るところにおもむき、教会の管理運営を助けている。

また、長年にわたって教会における公報プログラムのディレクターを務め、世界の様々な地域に、訪問者センターを多数設立し、宣教師が伝道の一環として訪問者や友人を案内できるようにした。

さらにピーターセン長老は、長年教会の軍人委員会と音楽委員会の一員および音楽委員会アドバイザーを務め、また20年以上にわたって、



全世界に広がる扶助協会のアドバイザーも務めた。

ピーターセン長老は過去6年以上にわたって西ヨーロッパにおける聖徒たちの働きを管理した。その範囲は西ヨーロッパ大陸全域と英国および南アフリカを含むものである。この任にある間、ピーターセン長老は地中海地方を巡回し、様々な地域に散在する米軍基地において、そこで働く末日聖徒の軍人たちと会見をした。

ピーターセン長老は生涯の大半をジャーナリストとして過ごし、教会所有の新聞社であるデゼルトニュース社の編集部門にあって様々な地位を得て働いた。後年、総支配人となり、後には社長となった。日刊新聞の発行とともに大規模な商業用印刷プラントの経営を行っていたこの出版社にあって、ピーターセン長老の勤続年数は50年以上に及ぶ。

生前に著わされた20種類以上の著作の中には、現在でも世界中の宣教師が配布しているパンフレットがある。すでに亡くなっている妻のエマ・マー・ピーターセン自身も、子供や青少年向けに12種類以上の書物を著わしている。

広島ステーキ部 徳山ワード部で 聖書展覧会開催

▶ 山口新聞
58.12.6付

「徳山」世界各語で最も広く「スロ」ポルトガル語を指す。従って、この聖書展覧会では、徳山ワード部の聖書展覧会が、このほど、徳山市有明町の末日聖徒イエスキリスト教会で開かれた。本報記者、金福には、日本語訳された新約聖書は、天文二十年（二五四）に、フランス・コサールが、日本に初めて輸入された。その後、初めに新約聖書が、聖書は、天文二十年（二五四）に、フランス・コサールが、日本に初めて輸入された。その後、初めに新約聖書が、

約百冊展示して聖書展



徳山市内のキリスト教会で

日 曜学校「福音の教義」クラスの最新聖書コースを終えるに際して、徳山ワード部日曜学校会長は、教会員と一般の方々を対象にした聖書展覧会を昨年12月3日（土）に徳山ワード部で開催しました。

日本語の聖書コーナーに、現在私たちが使用している口語訳のほか、明治訳、大正訳、共同訳、新改訳、関根訳、前田訳、中沢訳、塚本訳、バルバロ訳など。また英語の聖書コーナーに、1979年に出版された末日聖徒版の欽定訳、1611年欽定訳復刻版、アメリカ改正標準訳（RSV）、新英語聖書（NEB）、ジョセフ・スミス訳、現代英語訳（TEB）など。さらに他の外国語の聖書コーナーでは、原語のヘブライ語、ギリシャ語のほか、七十七人訳ギリシャ語旧約聖書、ラテン語ブルガタ聖書、ルターのドイツ語訳、フランス語、中国語、ロシア語、ポルトガル語など、合計約60冊の聖書を展示しました。

ほかにも、聖書外典、偽典、コンコーダンス、注解書、参考書類も合わせて約40冊展示しました。

広報として日刊紙3紙の地方版催しの欄に掲載され、ほかにコミュニティー新聞2紙が取り上げてくれたため、これを見て展覧会を訪れてくださった方々がありました。特に高校の英語

の先生方の注目を集めたのは、1611年欽定訳聖書の復刻版（定価18万円）でした。熱心にページを繰って、具体的に聖書の中の有名な物語や聖句を探しあてて、比較吟味しておられました。

この展覧会を通して、永遠のベストセラーとして世界で最も広く読まれている聖書に、人々が深い関心を寄せているのを再認識させられました。

教会員では近隣3支部からも出席があり、口語訳の素性、文語訳の格調の高さ、欽定訳とは何か、聖書は何から訳されているのか、本文はどうなっているのか、本文批評について、あるいはジョセフ・スミス訳について話題が集中しました。図表や聖書の現物を手に取って歓談し、学ぶよい機会となりました。日本聖書協会提供のスライド「聖書の伝承」を見て、近代における数々の写本の発見により、まだ部分的にせよ、聖書の本文が原写本の本文から忠実に訳されてきていることを学び、理解を深めることができました。

訪問して下さった40名の方々のうち教会外の方が13名いて、この種の催しとしては、予想以上の成果があったとうれしく思っています。

（レポーター：広島ステーキ部徳山ワード部日曜学校会長・沼野治郎）



●(写真左)クリスマス曲をメドレーで歌う宣教師たち(第2部)●(右)マリヤを訪れる天使ガブリエル役を演ずる宣教師は深みのあるベースで熱唱し、人々を魅了した(第2部)

東京南ステーキ部と 東京南伝道部の協力による「クリスマスの集い」 —延べ600人が入場—

19 83年12月24日(土)東京南ステーキ部は、東京南伝道部と協力し、「クリスマスの集い」を渋谷東邦生命ホールで開催した。

このクリスマス特別プログラムは、「心に残る愛のクリスマスをあなたに」をキャッチフレーズに、1時、2時、6時からの3部構成で行なわれ、1部、3部を東京南ステーキ部が、2部を東京南伝道部が担当した。また8ページにわたるプログラム内容を紹介した印刷物600部が無料で配られ、思い出のしおりとすることができた。

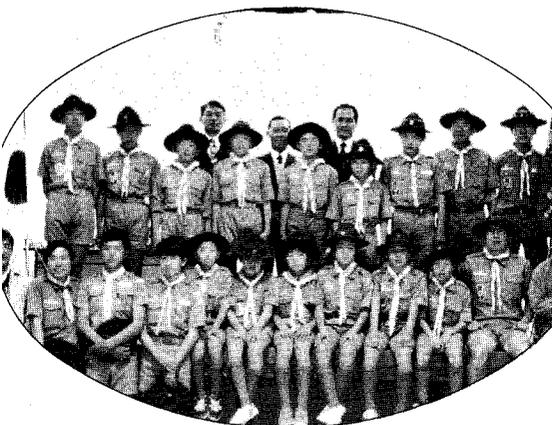
第1部では、日米合作アニメーション映画「クリスマス・キャロル」を上映。チャールズ・ディケンズ原作のこの16ミリ映画で主人公スクルージが言う「人助けこそ自分の仕事だ」という言葉に端的に象徴されるクリスマスメッセ

ージは、人々に感銘を与えた。

第2部は、「イエス・キリストの降誕物語」を宣教師たちの歌とナレーションでつづったもので、伝道部の中で豊かなタレントを持つ30名の宣教師たちが繰り広げる物語は、あたかもイエスの時代にいるかのような臨場感を醸し出した。少ない練習時間のため、どこまでできるか懸念される向きもあったが、本番では主のみたまの助けもあり、見事なステージを見せてくれた。定員300名の会場は、立ち見席もでるほどの熱気にあふれ、好評を博した。

第3部では、アニメーション映画「しあわせの王子」の上映と、ケント・ギルバート兄弟のピアノ伴奏による東京南ステーキ部聖歌隊のコーラスの発表、続いてギルバート兄弟がクリスマスメッセージを述べた。

会場を一日借り切ったの催しとなったが、終始会場は主のみたまと共にあり、心に残るクリスマスとなった。(レポーター：クリスマス特別プログラム実行委員・千田勝彦)



●(写真左)誓いの式を終え、ボーイ隊へ上進した5人を含めて記念撮影(名古屋第4ワード部において) ●(右)堀田ステーキ部長(左側)と翠監督(右側)から祝福を受ける福山兄弟(中央左)と山本兄弟(中央右)

名古屋地区ボーイスカウト のクリスマス集会開く

—名古屋地区で初めての「名誉章」
受賞も—

12月24日のクリスマスイブの日、名古屋第4ワード部は、紺の制服のカブスカウトたち、カーキ色の制服のボーイスカウトたち、その父兄、スカウター(指導者)、神権指導者など総勢60名が参集して、あたかもボーイスカウト会館の様相を呈しました。

お昼をはさんで開かれたのは、カブ隊の昼食会と隊集会です。子供たちは組ごとの出し物を元気に演じ、大いに笑い、小瀬垣隊長のサンタクロスからプレゼントをもらって大喜びでした。この隊集会の最後に、小学校5年生の少年5人がカブ隊からボーイ隊へ「上進」していきました。

彼らを待ちうけていたボーイ隊の隊集会で、両親、指導者、先輩スカウトが見守る厳肅な雰囲気の中、彼らは3つの誓いを立てるのです。

幼いながらに、①神と国とに誠を尽くしておきてを守り、②いつも他の人々を助け、③体を強くし、心をすこやかに徳を養う、と声高らかに宣言しました。

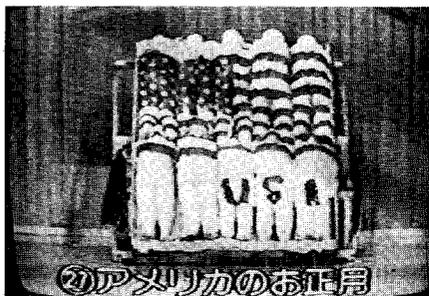
また、この隊集会で、山本和寛兄弟(高校1年生、名古屋ステーキ部名古屋第4ワード部祭司定員会会長補佐)と、福山哲哉兄弟(中学3年生、名古屋西ステーキ部名古屋第1ワード部教師定員会会長)のふたりが、名古屋地区で初めての「名誉章」を神権指導者から授けられました。この章は、高度のスカウティング技能と霊性の双方を兼ね備えていることを監督に認められた少年に与えられるものです。

当団は名古屋のふたつのステーキ部の会員の子弟と、地域の青少年の健全な訓育を目指して活動を始めて8年になり、着実に成果を上げています。アロン神権と初等協会の一環としてのスカウティングが日本各地でさらに大きな実を結ぶよう祈ってやみません。(レポーター：名古屋89团团委員長・中井宗雄)

①



②



「欽ちゃんの全日本仮装大賞」に出場して得た証 —「主の山に備えあり」—

東京ステーキ部東京第6ワード部
池田 和政

1月2日に日本テレビ系で生放送される「欽ちゃんの全日本仮装大賞」の出場募集記事を10月中旬に新聞で見た私は、「これだ!」と心の中で叫んでいました。「伝道する意味からも、必ず予選で合格し出場できる」と直感したのです。しかし、この時点では何ができるかといった具体的なアイデアは何もありませんでした。

放送日当日、全国ネットで放映され、視聴率も20パーセントを超えたこのお正月の名物番組に、私を含め東京ステーキ部の会員10人で出場し、「アメリカのお正月」と題する仮装を披露しましたが、今回の出場までには、数多くの試練がありました。

12月10日(土)の関東地区予選の結果、ディレクターの方から、「来週、もう一度手直しをして見せてほしい。それでよければ合格ということで1月1日(日)のリハーサルに来てもらい

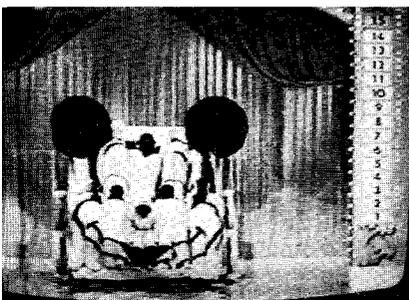
たい」と言われました。

翌日の安息日、私たちは集まって話し合ったところ、いくつかの問題が浮かんできました。各自の疲労度や経済的負担が限界にきていて、期日までに予選の準備ができないことや、リハーサルが1月1日の安息日にあたっていることなどでした。話し合いの中で「リハーサル程度なら……」という妥協案も出ましたが、結局私たちは主の用向きを持つ者としてとるべき態度を考え、全員一致で出場を辞退することに決めました。これまで多くの犠牲を払って進めてきた計画だけに、姉妹たちの中には泣き出してしまう人もいました。

「アブラハムがイサクを主の真の目的も知らずにいけにえとして捧げようとしたように、私たちも主の命令を完全に守りましょう。『主の山に備えあり』と言って私は皆を励ました。

奇跡は翌日起りました。私たちは末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であり、安息日を守っていること、またクリスマス行事のために忙しくて1週間で手直しできないことなどを理由に辞退したいとテレビ局の方に伝えました。するとディレクターの方は、日程を変えて12月27日に手直ししたものを見てくださることや安息日にあたっている元旦のリハーサルには出なくてもよいこと、さらにこの場で合格にして支

③



④



●①「欽ちゃんの全日本仮装大賞」に出場した東京ステーション部聖歌隊の10人と司会者の萩本欽一氏。右端がリーダーの池田和政兄弟。②10人の背中を合わせ

度金をくださるとまで言ってくださいました。しかも、12月27日は日本テレビの方が私たちの大道具の置いてある吉祥寺のステーション部センターまで出向いてくださるというのです。

その晩、緊急に召集された仲間は、私からその話を聞くと、主の戒めに従った結果与えられたあまりに大きな祝福に、アブラハムのように喜びました。まさに「主の山に備えあり」だったのです。

それから本番までにも、幾多の困難がありましたが、無事本選の日を迎えることになりました。私たちは全員控え室で輪になり主に熱烈な祈りを捧げました。私たちがすべきことを教えてくださいよう助けを求めたのです。その結果、全員に主のみたまが注がれたのを感じました。

私たちは皆聖歌隊のメンバーでしたので、本番直前のリハーサルで司会者である萩本欽一さんから「どういう関係の仲間なの？」と聞かれたとき、末日聖徒イエス・キリスト教会の聖歌隊のメンバーであることを話しました。「聖歌隊？じゃ、ちょっと歌ってみてよ」ということになり、讚美歌39番の「家庭の中に」をステージで歌いました。客席にいたほかのリハーサル関係者から拍手が起こり、それはそのまま本番でも歌われました。

「聖歌隊です」と名乗った私たちは、リハーサ

て星条旗を形作った。③向向きになりミッキーマウスをデザイン。④演技を終えて紹介を受ける教会員(日本テレビより)

ルの合間にほかの出場者のいる控え室で、何曲も歌いました。そして本番が終わってから萩本欽一さんとグループごとに記念写真を撮る間、今度は88番の「日は暮れ」を歌いました。すると彼は私たちの中に入って来られて指揮を始めたのです。広い控え室はシーンとなり、歌い終わると「とてもきれいな歌声ですね」と言って人々は拍手をしてくださりました。私たちの写真(①)を撮ってくださったほかの出場者からの手紙に、「あなたがたの素敵なハーモニー、手元にある合格メダルを見ると聞こえてきます……」とあり、私たちの写真を同封してくださいました。私たちは、その方にモルモン経をプレゼントすることにしました。

当日は井上伝道部長から特別に許可を得て、東京南伝道部の宣教師20名(テレビでは審査員席の真後ろに映っていました)が応援に来てくれました。またそのほかの宣教師たちは、求道者の家庭でテレビを見てくれました。

私は仕事先で会った人々に「テレビに出るから見てね」と言っておきましたので、年明けにはテレビを見たそれらの方々から私が末日聖徒であることを知り、今まで以上に親しく仕事をさ

せていただけるようになりました。

本番では合格ラインの15点をクリアし、17点で合格しました。入賞には至りませんでした。賞金などに代えられないたくさんのおものを神様からいただきました。私自身、今までの信仰生活の中で本当に純粋な主への証を実践を通して行うことができました。

私たちは伝道というみ業のために、マスコミというすばらしい媒体を通し主の用向きを持つ者として使われたことに、口では言い表わせない喜びを感じています。一層謙遜になって、主のみ業のために働く決心をしております。(レポーター：東京ステーキ部東京第6ワード部長老定員会会長・池田和政)

「明けまして おめでとう」伝道

—京都—



●(写真上)境内でカメラに収まる宣教師たち
 (下)神社の参道で参拝者に新年のあいさつをする宣教師たち



一般にお正月は、宣教師にとって伝道がむずかしいときとされていますが、ここ京都に住む宣教師一同は、京都ワード部の伝道主任である植田典男兄弟の勧めを受けて、大変楽しくまた効果的ともいえる伝道を行ないました。

日本では、初もうでは多くの人々にとって欠かすことのできない年頭行事となっていますが、元旦、2日の2日間にわたって4人の長老たちは紋つき羽織はかまの正装で、ふたりの姉妹宣教師たちは美しい振り袖の思わず目も洗われる晴れ姿で、近くの神社や家々をまわりました。

大柄で金髪の外人数人が、日本古来の伝統着を身にまとい境内を歩いている姿は、人々に少なからぬ驚きと感動を与えたようです。これは予想以上の反響でした。実に大勢の人々から一緒に写真を撮るように頼まれ、また私たちの活動や目的について尋ねられました。ある人は感心し、ある人は一緒に撮った写真を送ってくだ

さいました。また、テレビでもその光景は放映されました。

おだやかな日本晴れとなった安息日に、和装に威儀を正した宣教師たちが礼拝堂に集っている姿を見て、「こんなにすばらしい宣教師の長老や姉妹たちの姿を今まで見たことがない」という声を何人もの教会員から聞きました。

キリストの教えは、ともすれば日本人の文化、伝統とまったく相反する宗教だという印象を持

たれますが、今回の伝道を通して、その文化や伝統を打ち消すことなく、より自然に福音の光を人々の心に照らすことができたのではないかと考えています。

最後に、いつも私たち宣教師を励まし助けてくださり、今回の衣装代を負担してくださった伝道主任を初めとする京都ワード部の方々に心から感謝いたします。(レポーター：専任宣教師・栗原謙長老)



●(写真左)防府市社会福祉協議会の協賛を得て開催された「バイク・ア・ソン」●(右)6チームに分かれ35キロを走破

第5回バイク・ア・ソン 伝道とボランティア活動 で成果 —山口地方部—

昨^{ひょう}年の11月23日の祭日、山口地方部の防府支部で第5回バイク・ア・ソン (Bike-athon) を、防府市社会福祉協議会の協賛を得て開催しました。山口支部、宇部支部、下関支部を含め、4つの支部から54名の参加を得ました。第1回から第4回までは宇部支部で実施してきましたが、4つの支部の集まりやすい防府市が今回の開催地となりました。

バイク・ア・ソンというのは、今アメリカで

流行しているチャリティーのための自転車マラソンのことです。福祉施設への援助、健康づくり、多くの市民がボランティア活動に参加できるなどの目的があり、日本でも実施されるようになってきました。自転車で市内を走る人と、それに対して寄付する人の両者によって成り立っていて、走者の友人、応援者などからいくらかの寄付を申し出てもらい、それを教会でまとめて防府市社会福祉協議会に寄付するものです。

防府市のサイクリングターミナルを出発し、市内35キロを2時間半にわたって走りました。

6チームに分かれ、各チームの先頭としんがり
に外人宣教師がついて、伝道の目的も果たせる
ように取り計らいました。

このユニークなボランティア活動は、地元の
ローカル新聞で取りあげられ、山口放送のテレ
ビでも2分半にわたって紹介されました。集

まった寄付から自転車を借りるのに要した費用
など差し引いた139,266円が防府市社会福祉協
議会に贈られ、伝道とボランティア活動の両面
で成果を上げました。(レポーター：第5回バイ
ク・ア・ソン実行委員長・吉岡公夫第一副地方
部長)

歌は心の友、幸せへの愛の扉

—香港でクリスマス・コンサートに
賛助出演した4人の娘たち—

末世聖徒合
LDS



東京南ステーク支部恵比寿ワード部 松下みはと

●香港でのクリスマス・コンサ
ートに賛助出演する松下みは
と姉妹、志るか姉妹、まな実
姉妹、みやび姉妹(前列中央)

1983年、12月24日午後7時30分、香港^{ツェンワン} 荃湾
大会堂のホールには約1,300人余りの
人々が、今や遅しと開演を待っていました。こ
こは香港で2番目に大きな公共のホールで、国
家的行事もよく行なわれる所です。毎年香港の
LDS聖歌隊(末日聖徒合唱団)が恒例のクリ
スマス・コンサートを開きます。新聞にも大き
く掲載され、テレビで放映されたこともある年
中行事です。1983年のクリスマスには、デパート、
野外ステージ、公園などで12月20日から26
日まで計6回の公演が行なわれました。

私たちはこの聖歌隊に招かれて24日のイブ
コンサートと26日最後の公演に賛助出演する
機会に恵まれました。開演15分前、楽屋で行な

われた祈り会で、香港地区音楽委員長の尹兄弟
から、発行されたチケットは開演を待たずに売
り切れたと発表されました。尹委員長の手短な
証の中にも香港の聖徒たちの並々ならぬ努力と
一致の精神を伺い知ることができ、非常に感銘
を受けました。

香港へ行くようになったきっかけは、香港か
ら神殿訪問に来られた兄弟姉妹と私たちの両親
が神殿で知り合い、我が家のお茶の間コンサ
ートと食事にお招きしたことからでした。彼らは
皆、私たちの歌に言語と国境を越えて感動し、
涙して喜んでくださいました。数々の霊的、経
済的な障害を乗り越えて、神殿訪問を実現され
る香港の数少ない会員の方々を見てみると、か

つて日本からハワイやソルトレーク神殿にはるばる出かけて行った自分たちの姿と重なり合っ
て目頭が熱くなると、いつも両親が語ってくれ
ました。今や東京神殿のひざもとに住む私たち
は、もっともっとがんばらなければといつも励
まされるのです。

香港空港での熱烈な歓迎に始まり、コンサ
ート、家庭のディナー、大酒楼(大衆レストラン)
での楽しいパーティー、観光、そして空港での
見送りを通して、私たち家族は想像もしていな
かった歓迎と愛を受けました。

私たちがこうして家族として歌い始めたのは、
6年ほど前のことです。当時私たちの所属して
いたワード部には私たち4姉妹のほかにも青少年
の会員がほとんどいませんでした。来る日も来
る日も家庭の延長のような教会活動で、仲間の
いないさみしさをしばしば味わい続けました。な
んとかして青少年の仲間を増やしたいと願い、
4人で折り、相談しました。その結果、音楽を
通して輪を広めていこうということになりました。

音楽こそ青少年の心を開き、心を結ぶすばら
しい手段であると確信したのです。私たちは小
さい頃から歌うのが好きで顔がそろえば歌って
いました。時には童謡であり、子供の讚美歌で
した。しかし私たちは特別な音楽の訓練を受け
ていませんし、決して上手とは言えませんでした。
それで初めは既成のポピュラーソングを歌
ってささやかなコンサートをワード部で開きま
した。

未熟ながらも私たちの熱意が通じたのか、教
会員の聴衆の中に何人かの青少年のお友達が参
加してくださいました。次回からはそのお友達
も仲間に加わって楽しむようになり、改宗者も
出始めました。活動は回を重ねるたびに参加者
も増え、内容も少しずつ充実していきました。

愛のメッセージ

作詞・作曲／松下みはと

あなたもいつか歌う時がくる
今はすべてが信じられなくても
ほら 人は誰でもよりそいなから
いつかくる幸せを待っている
歌は心の友 歌は恋人
歌は幸せよぶ愛のとひら
さみしくなったら思い出してね
あなたを信じる人がいることを
そう 私たちはとても小さいけれど
この愛だけは永遠に続いている
歌がつかないでる 歌が結んでる
歌はあなたへの愛のメッセージ

それにつれて既成曲にはあき足らず、福音の喜
びと証を自分たちのオリジナルソングとして歌
い、踊りたいと思うに至りました。

幸い私は数年前から教会のオルガニストに召
されていたおかげで、少しピアノが弾けるよう
になっていました。しかし作曲などするようにな
るとは思いもよらぬことでした。

1981年10月号の「聖徒の道」に母が証ととも
に紹介させていただいた最初の曲「Happi-
ness」が生まれるまでは苦しい努力が続きまし
た。しかしこの曲がひらめいてからは、ほぐ
れるように次々と作曲することができて必要と
状況に応じた歌が楽しく作れるようになりました。
この最初の曲は現在も人々と心の触れ合い
のきっかけを得るためによく歌う曲で、我が家
のテーマソングになっています。



●(写真左)昨年11月、名古屋で行なわれた教会の音楽祭で歌う松下みはと姉妹(21歳)●(右)左より志るか姉妹(19歳)、まな実姉妹(17歳)、みやび姉妹(16歳)

この6年余りの活動を通して全国各地の多くの方々と接することができ、公演も大小合わせて70回を数えました。オリジナルソングのレパートリーも100曲を越えています。また、その間数えきれない祝福を受け、教会や学校、社会にあって、数々の責任を果たす機会に恵まれ成長してきました。

けれども、楽しいことばかりではありませんでした。教会に行っているということが友達との関係に波紋を投げかけることもありました。知恵の言葉を守ることや安息日を聖日として過ごすことは、時には友達の輪から抜けなければならない原因にもなりました。教会を優先することは、クラブ活動で力を発揮する妨げになることもあり、友を失う悲しみを味わうことさえありました。多感な思春期の青少年にとって、それはとてもショックな出来事です。活発に集っていた青少年の中にも学校、仕事、友人、家族との問題が生じ、足が遠のいていく人もありました。

しかしさみしく落胆したときでも、自分たちの歌がいつも問いかけ、励ましてくれるのです。



私たちの歌を支えている福音の真理が多くの奇跡を生み出してくれたのです。

私たちはこの5年間、苦しいときにこそほほえみが必要であり、苦しみや悲しみを乗り越えたときに本当の喜びが得られること、またこの福音が真実であり、神様が私たち一人一人を心から愛しておられること、家族は永遠であることなどをテーマに歌い続けてきました。そして涙して聞いてくださった方々以上に励まされ、勇気づけられたのは実は私たち自身だったのです。その意味でこれらの経験を与えてくださった神様と兄弟姉妹に心から感謝します。

現在大きな社会問題のひとつとなっている青少年問題を考えるとき、私たちもその世代を経験してきた者として、明るい希望や問題解決のヒントが福音の精神を実行することによって得られることを、身をもって経験できたように感じています。

若人はその無限のエネルギーと可能性を発揮したい強い欲求を抱きながら、それを正しく用いる目標と模範にめぐり会っていないのではないのでしょうか。

私たちには幼いときより両親から教わってきたモットーがあります。それは何事も一生懸命、

家族や仲間と一緒に行なうこと、また他の人がしながらないこと、ほかの人がしにくいことを進んで行なうことに喜びを見いだすこと、などでした。

私たちは両親の若い頃の経験に耳を傾けるのが大好きです。とりわけ初期の支部が設立されて間もない頃、毎週教会の掃除会に出かけたこと、教会堂の資金作りでいるいろいろな活動を会員が一致協力して行なったこと、神殿訪問の資金のために何年間も余分に働いた経験などを数限りなく話してくれました。

昔、父の少年時代に戦後初めて野球の国アメリカから日本へ親善試合に訪れたサンフランシスコ・シールズ軍のオールド監督が残した名言に「野球をする少年に不良はいない」というのがあったそうです。私たちは「トイレ掃除をする少年に不良はいない」と両親が言うように思えて、青少年活動の一環として、あるいは個人の奉仕活動としてつとめて教会の清掃、特にお手洗いの掃除をするように心がけています。決して好きな仕事とは言えませんが、そのあとにすばらしい充足感と何でもできるのではないかという勇気がわいてくるのです。

またキンボール大管長についてこんなエピソードを話してくれました。あるステーキ部大会に出席されたキンボール長老は、ステーキ部センターのお手洗いに入っていられました。同伴していたステーキ部長が、あまりお帰りが遅いので心配になり、お手洗いをのぞいて見ると、キンボール長老が紙タオルのちらかっているゴミ箱の周囲を一生懸命掃除していました。困惑しているステーキ部長に彼は「ここも神様の教会の建物ですから、きれいにするのは私の責任です」とことなげにほほえまれたというのです。

これこそ私たち会員に対する最もわかりやす

い模範のひとつです。私たちは物事をむずかしく考えるよりも、身近な事柄を他人に求める前に自分から実行する習慣を通して幸せな人生を送れるのだと思います。

デビッド・O・マッケイ大管長がかつて次のように言われました。「生活が性格を顔に刻む。」私たちの人格は日常の生活の積み重ねによって生み出されるという意味だと思っています。

私たち若人はそれが何であれ、天から与えられた若いエネルギーと未開発の才能を信じて、主が示される良きことに全力を尽くしてチャレンジしていくことにより、幸福になれる数々のヒントと能力を与えられるものと確信しています。

1983年1年間に、沖縄、大阪、名古屋、横浜そして香港の各地で歌い、延べ4,000人の方々に聞いていただきました。過去5年間では1万人を越えました。私たちが出会った多くの方からいつも温かい言葉と励ましを受けました。

新年を迎え、私は我が家のトップバッターとして専任宣教師に召されました。これからの5年間、次々に伝道に出て行くことを思うと、家族全員で歌うこともしばらくできなくなるでしょう。でも家族の絆は永遠であることをよく知っていますので、これからも家族として、このすばらしい永遠の真理を多くの方々と分かち合いたいと願っています。

真理は言葉も環境もすべてを越えて人の心を貫くことを心から証します。私たちを迎え入れ歌を聞いてくださった方々、豊かな愛をありがとうございました。天父が生きておられ、この教会が真の教会であること、この福音がすべての人に必要な、命をかける価値のある唯一の真理であることを強く証いたします。(まつした・みはと 1962年生まれ、今年の2月に日本札幌伝道部の専任宣教師に召された)

●1年半かけて四大聖典全部を書き写した黒田兄弟。左側に積んであるのがそのノート。



●昨年9月、奥様も改宗された

忘れられない 4つの出来事

高崎ステーキ部桐生ワード部
黒田 仲治

私が末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師と出会ったのは61歳のときです。60歳の定年も過ぎ、1年の嘱託もすでに終わりに近づいていました。将来に対する不安と漠然とした寂しさが、心の空白を埋める何かを求めていました。

そんなある夜、宣教師の訪れを受けたのです。「15分ぐらい、お話してもよろしいですか」と聞かれた私は特に用事もなかったのに、彼らと30分ほど話しました。次の日、再び来られたので、教会の教えの中に何か生きがいを見いだせるかもしれないと考えた私は、「私のような年寄り相手でもよいのですか」と切り出して、お話を聞くことにしました。

幸い周藤兄弟という年輩の教会員の方の助けもあって、教会について理解を深めることがで

きました。また翌週の安息日からおそるおそる教会に行くようになりました。レッスンが進むにつれて「知恵の言葉」の戒めにお酒やタバコなどが禁じられていることを知りました。これまで何度となくやめようとしてきましたが、どれもうまくいった試しがなかったので、私に守れるか一抹の不安がありました。最初のうちは、タバコやお酒を少なくして、やめようと決心したのですが、なかなか完全にやめることができず困りました。あるときは、禁断症状のために何日か眠れない日が続きましたが、バプテスマを受ける4日前になってやっと断ち切ることができました。

私は少年の頃、家が貧しかったため12歳で奉公に出されました。家に帰れるのは年2回という時代でした。そのような生活環境のために、十分な学力を身につけることができずにいましたので、教会の教義を勉強するのに人一倍苦労しました。不足の学力をなんとか人並にしたいと考えた私は、聖典を書き取ることを思いつきました。

モルモン經のニーファイ第一書から書き始め、2カ月ほどで全部書き取りました。次に「教義と聖約」に取りかかりました。むずかしい漢字が多くて書き取りにくいので大きなレンズを買って求め、一字を何度も何度も見ながら書き写しました。

非常に根気のいる作業で幾度となくやめようと思いましたが、あの酒やタバコをやめられたことを思えば、こんなことは大した苦勞ではないと、みずからにムチ打ってやっと完成させました。

末日の聖典を終えてからいよいよ旧約聖書に入りました。旧約聖書は格段と文字数が多く、3カ月、4カ月と書き写してもなかなか先が見えず、断念しようかと思いましたが、ホームティーチャーの助けと励ましを受けながら1年半かけてついに四大聖典全部を書き写しました。そのときの感激は、一大仕事をやり終えたときの達成感と同じように大きなもので、とても言葉では言い尽くせない喜びでした。

宣教師との出会いと四大聖典の写字に加えて忘れられない3つ目の出来事は、私が病に伏したときのことです。

81年6月、夜中に突然腹部に激痛が走り、翌朝入院という事態に陥りました。胆石症だったのです。毎日検査が行なわれましたが、一向に痛みがやまず、数日間眠ることができないほど苦しみ通しました。えびのようになって苦しんでいたときにホームティーチャーが駆けつけてかんい灌油の儀式を施し、祝福してくださいました。祈って10分ほどしてから、驚くべき奇跡が起きました。あれほどの痛みがうそのようにとまったのです。そのときは、時間がたてばまた痛みがぶり返すのではないかと心配していたのです

が、夜になっても痛みは起こらず、疲れてもいましたのでその夜はぐっすりと眠ることができました。

翌日、医師に診断してもらったところ「胆石の石が落ちた。めったにないことだが、そういうこともあるんだろう」と不思議がっていました。そして無事に退院となりました。主がホームティーチャーを通して癒してくださったことを私は知りました。

4番目は私の妻の改宗です。83年の9月には、私の妻も信仰を得て、私みずから手で妻にバプテスマを施すことができました。妻の改宗には、東京北伝道部のオグデン伝道部長を初め、教会員からの大きな援助がありました。妻のバプテスマ会には東京から伝道部長がわざわざ出向いて、私たちを祝福してくださいましたことはとてもありがたく、涙がこぼれました。私の生涯で忘れることのできない日となり、感謝と心からの愛に満たされました。

末日聖徒イエス・キリスト教会が真の生きた神の権威、権能のある回復された教会であると心から証します。生きがいを求めて宣教師に教えを請い求めた私ではありましたが、彼らとの出会いから思わぬ人生の道が開かれ、生きる喜びと福音に添った生活の中に、張りのある毎日が送れるようになったことは望外の幸せと深く感謝しております。(くろだ・なかじ 1916年生まれ、桐生ワード部伝道主任)



完成した 井尻ワード部 教会堂

九 州の中心地である100万都市福岡市の南部、山陽新幹線の終着駅博多駅や福岡空港、中心街の天神から約10キロの至近距離に位置しているのが、私たちの井尻ワード部です。

6年ほど前の1978年5月に当時の福岡支部（現在、福岡ワード部）から独立したのが始まりで、昨年7月末に恵まれて新しい教会堂が完成し、現在に至っています。

西鉄井尻駅より徒歩1分、駅前商店街のにぎわいとは反対側の閑静な住宅街にあります。また教会堂は、元駐車場跡の敷地約120坪という狭い場所に建てられたため、末日聖徒の新築の建物としては珍しい3階建てとなりました。

今年度の井尻ワード部の目標として「実行」を掲げました。「すべての活動を伝道に」をスロ



ーガンにがんばっています。また同時に福岡ステークス部の年間目標である「豊かな家庭を築く」ために、ステークス部で発行した小冊子の具体的なチェックリストに従って、伝道におけるフェローシップキャンペーン、年2回の神殿訪問の実施、独身成人活動の充実化などを全組織が協力し合い、果たしていきたいと思います。

最後に一首「階段を目標を決めてしっかりとまっすぐ歩む信仰の道」（福岡ステークス部井尻ワード部監督：田中良一）

編集室から

●お知らせ ●「聖徒の道」4月号から今までよりも1週間ほど早くお届けできるようになりました。ご期待ください。（なお、このために申し込み締切日が今までより繰り上がり、前月の1日までとなりますのでご注意ください。（たとえば4月号の申し込みは3月1日までとなります））

●お願い ●各地の催し物、すばらしい体験や証

を持つている方を電話か葉書きで「聖徒の道」編集室へお知らせください。こちらから取材するか、あるいは直接該当者に原稿依頼いたします。全国からよい記事を集めるために皆様のご協力をお願いします。（担当者：石王）

●あて先：〒106 東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会「聖徒の道」編集室。TEL 03-440-2351（代）。注：投稿には必ず連絡先（電話番号）を記入してください。

福岡ステーキ部

●井尻ワード部教会堂

(1983年7月完成)

福岡市南区井尻1丁目38-28

TEL 092-572-8930

◇敷地面積：386.04㎡

◇建築面積：176㎡

◇延床面積：496.19㎡



1985年12月2日に献堂されたメキシコ・シティー神殿。'85年度内に献堂された神殿としては6番目にあたる。献堂式は12月4日まで行なわれ、全9セッションに延べ4万人の教会員が参加した。

